

然レドモ如斯キ論旨ハ、特許法及實用新案法ガ並立シ且是等ガ夫々保護スベキモノ、素質明白ナラザルノトキニ當リ、當面ノ問題ヲ解決セザルベカラザル場合ノモノナレバ、眞ニ得止ザルノ解決ニシテ、從テ之ヲ深ク追及スベキ性質ノモノニ非ズト雖、如斯キ判示ニ依リテ特許官ノ査定ナルモノ、眞意ヲ單純ナルモノトシテ看過シ去ラルレバ、予ニ於テ遺憾トスル處ナリ。

抑或物ノ形態ニ關スル工夫ニ對シテ、之ヲ發明的程度ノモノト爲スベキカ又ハ考案の程度ノモノト爲スベキカノ甄別ニ就テハ、何等カノ標準ニ依ルニアラズムバ、凡ソ事物ノ理法上之ヲ遂行シ得ラルベキモノニ非ズ。殊ニ特許官ノ査定ナルモノハ理詰ヲ要求サル、モノナルガ故ニ、尙更其理法ニ超然タルヲ得ザルナリ。

然レドモ此種ノモノ、査定ニ付一見畫一ナル標準ノ存セザルガ如ク見ユルハ、只從來ニ於テ其標準ノ存所ヲ明示セザルニ過ギズ。

#### Ⅰ. 發明及考案程度ノ高踏の標準

讀者ハ既述ノ性質相違論者ノ發明ニ對スル定義ノ一節ニ、發明トハ技術ノ現在程度ヲ超越シテ新解決ヲ與フル創造的思想ナリト謂ヘル語ヲ想起スルナラム。此定義ハ技術ノ智識ニ左程造詣厚カラザル者ニ依リテ先ヅ提言セラレ、次デ其如何ニモ尤モラシキ表現ニ魅セラレタル同類ノ者ニ依リテ敷衍セラレ、更ニ技術ニ造詣厚キ者ヲシテ其定義ノ下ニ無批判ニ踊ラシメタル嫌ナシトセズ。而シテ其踊レル者ノ歌ヲ聞ケバ、物ノ形態ニ關スル工夫ニ付同種ノモノ未ダ曾テ絕對ニ存セズ且想像モ及バザル程度ニ於テ全然新規ナル創造物ナルトキハ、正ニ技術ノ現在程度ヲ超越セルガ故ニ之ヲ發明ト唱ヒ、既ニ他ニ同種ノ思想又ハ物ガ存在シ且其種ノモノ、單ナル改良ニ止マルニ於テハ、技術ノ現在程度ヲ超越セリト認メ難キガ故ニ之ヲ考案ト歌フ。是發明ト考案トヲ甄別スベキ原則的標準ナリトス。

然レドモ此標準ヲ嚴密ニ遵守スルトキハ、物ノ形態ニ關スル發明ハ甚稀ニシテ、其九分九厘迄ハ考案ノ程度ヲ越エザルベシ。蓋全然新規ナル物ノ形態ニ關スル創造的ノ發明ハ、事實上屢發生シ得ベカラザレバナリ。

#### Ⅱ. 高踏の標準ノ瑕疵

茲ニ於テ叙上ニ踊レル者ノ高踏の標準ノ歌調ハ、發明ナルモノ、眞實ノ批判ニ目覺ムレバ目覺ムルニツレテ、漸ク亂調ニナラザルヲ得ズ。其亂調ノ依テ生ズル所以ヲ述ブレバ、

(1) 特許法ノ下ニ出願ノ此種發明ヲ其標準ニ照シテ片端シヨリ拒絶スルコトハ、事實上到底遂行シ難キノミナラズ、如斯キハ發明ヲ獎勵シ助長スル所以ニモ非ズ、又特許法ノ所期スル精神ニモ非ザルベシ。從テ自ラ斯カル高踏の發明ノ標準ヲ維持スルヲ得ズ。

(2) 又特許法ニ所謂發明ハ獨リ物ノ形態ニ關スル發明ノミナラズ、物又ハ物ノ製法ニ關スル發明ヲ包含シ、併モ後者等ノ發明ハ考案ノ範圍ニ屬セザルモノナルガ故ニ、是等ノ改良的發明ニ對シテハ叙上ノ標準ノ程度ヲ幾分手加減シテ、之ヲ保護シ獎勵シ助長セムトスルノ精神ニ傾キ易キハ、理法上容認サルベキ事柄ナルベシ。斯クシテ物又ハ物ノ製法ニ關スル發明ノ發明的程度ノ標準ノ遞下ハ、自ラ物ノ形態ニ關スル發明ノ高踏の標準ヲモ遞下シテ、發明ト考案トノ距離ヲ接近スルノ傾向ヲ惹起スベシ。

#### Ⅲ. 合理的ナル發明ノ標準ノ發現

全然新規ナル創造的ノモノト雖、其モノガ至極單純ナルカ又ハ複雜ナルカニ依リテ、其發明ニ至ル迄ニ甚シキ逕庭ヲ有ス。從テ是等ヲ一連ノ下ニ相關シテ觀察スルトキハ、至極單純ナルモノ、發明的性能ハ、複雜ナルモノ、改良的發明ノ夫レニスラ遠ク及バサル事實ノ存在ニ當面スルナラム。然レドモ如何ニ單純ナレバトテ、複雜ナルモノト同様ノ立場ヲ以テ、夫々別箇獨立的ニ社會ノ各方面ニ役立つモノナルトキハ、其單純ナルノ故ヲ以テ、全然新規ナル創造的ノモノガ發明ニ非ズト謂フヲ得ズ。茲ニ於テ此種創造的ノモノハ、其單複ニ拘ラズ之ヲ發明トシテ容認スルモ、其改良的ノモノニ關シテハ、之ヲ發明トシテ容認スル上ニ異論ヲ生ジ易ク、從テ又是等ノ一切ニ對シテ、一般ニ通ズル發明的程度ノ標準ヲ設定スルコトニ甚シキ困難ヲ伴フベシ。

叙上ノ事實ヲ推按シテ窮理ノ結果ハ、夫々ノ物ノ性質ニ應ジテ、既ニ若シ發明ト認メラレタル幾多同類ノモノ、存在スルトキハ、是等ノ技

術的價值ヲ對照トシテ、先ヅ其部門ニ於ケル發明ノ程度ハ如何ナルモノナルカノ觀念ヲ體得シ得ベク、此觀念ト或工夫トヲ比較シテ其工夫ガ該觀念ト權衡ヲ失セザル程度ノモノ又ハ夫レ以上ノモノナルトキハ之ヲ發明トシテ容認スベシ。斯クシテ夫々ノ部門ニ於ケル夫々ノ發明ノ程度ノ標準ヲ得ルモノトス。

次ニ若シ同類ノモノ未ダ曾テ存在セズシテ、全然新規ナル創造的ノモノナル場合ニ於テハ、此發明ノ技術的價值ガ乃チ其方面ニ於ケル發明ノ程度ノ標準ニナルモノトス。

叙上ノ意義ニ於ケル標準ハ、其實質ニ就テハ一定ノ固定性ナク時代ト人トニ依リテ變移シテ彈性ヲ帶ブルモノナレドモ、其根本的觀念ニ就テハ叙上ノ範圍内ニ固定セラレ時代ト人トニ依リテ變移スルコトナク恒性ヲ帶ブルモノナルコトヲ了解スルナラム。

斯ク標準ノ實質ニ付固定性ナクシテ彈性ヲ帶ブルコトハ、一面ニ於テ缺點ト謂ヘバ缺點ナレドモ、元來發明ハ必要ヨリ生ズル時代ノ產物ナルガ故ニ是ニ彈性ヲ帶ビテ固定性ナキハ必然ノ態ナリ。又他面ニ於テ是ニ彈性ヲ帶ブルガ故ニ、發明ハ向上シ發展スルモノナル點ニ想當セバ、之ヲ缺點ナリト謂フヲ得ズ。只發明ヲシテ發明ナリト容認スベキ其標準觀念ヲ確實ニ了知スルトキハ、假令其實質ノ點ニ付固定性ナシトスルモ、是ニ由テ發明ノ容認上ニ不都合ヲ生ズルコトナカルベシ。

### Ⅲ. 發明ノ標準ト査定

叙上ノ如キ發明ノ程度ノ標準ハ、未ダ曾テ何人モ之ヲ特記シテ提言ヲ爲シタル者ナシト雖、夫ハ亦特許官ガ一般的ニ或工夫ニ付之ヲ發明ノ程度ノモノナリトシテ容認スルニ當リ、特許官ノ懷藏セル標準ニハ在ラザルカ。果シテ然ラバ當該特許官ガ或工夫ヲ發明ナリト容認スル場合又ハ容認セザル場合、一定ノ標準ナシト謂フヲ得ザルナリ。

從テ或發明ニ付當該特許官ガ、之ヲ發明ノ程度ノモノニ非ズト看做シテ是ニ拒絶ノ査定ヲ與ヘタル場合、又ハ之ヲ發明ノ程度ノモノトシテ是ニ特許ノ査定ヲ與ヘタル場合、其査定ハ果シテ標準ヲ滅却セザル正當ノモノナリヤ否ヤニ付、技術上及法律上研究ノ價值アル問題ナリトス。

A. 今標準ヲ滅却セル不當ナル拒絶査定例ノ一二ニ付論究ヲ試ミムトス。

イ. 單純ノモノタルト複雑ノモノタルトニ拘ラズ、全然新規ナル創造的發明ニ對シ、是ト何等ノ關係ナキ他ノモノヲ引證シテ、本發明ハ前記ノ事實ヨリ容易ニ實施シ得ル程度ノモノナリトシテ、之ヲ拒絶(勿論意見書ノ主張ハ之ヲ認メズ)セルガ如キ場合ハ、其發明ノ何者ナルカヲ理解セズシテ標準ヲ滅却シ新規ナル産業ノ發生ヲ阻止スル査定ト謂ハザルヲ得ズ。

ロ. 或改良發明ニ付、他ノ既存同類ノ發明ノ程度ヲ考慮セズ、或ハ爾後發現スベキ發明ハ、必然既存ノモノ以上ノ程度タルコトヲ要望シテ、漫然ト之ヲ拒絶セルガ如キ場合、又ハ其發明ヲ構成セル因果ノ連鎖ニ意義アルニモ拘ラズ、各部ノ因果ガ夫々公知公用ノ故ヲ以テ併モ四五又ハ以上ノ公知、公用ノ事實ヲ列記シテ(其甚シキモノハ公知、公用ノ事實ガ各所ニ散在シ、餘程博學多識ノ者ニアラズムバ到底彼様ノ事實ヲ探求スルヲ得ザル程度ノモノヲ、如何ニモ尤モラシク列記シテ—如斯ハ法律ニ違背ス)是等ノ單ナル湊合トナシ(之ヲシモ湊合ト謂ヘバ、既存ノ同類發明モ亦湊合的ノモノナルニモ拘ラズ)以テ之ヲ拒絶セルガ如キ場合等モ亦、發明ノ真髓ノ何者ナルカヲ理解セズシテ標準ヲ滅却シ産業ノ獎勵助長ヲ阻止スル査定ト謂ハザルヲ得ズ。

ハ. 若シ夫レ發明ノ拒絶ニ當リ、何等ノ確證ヲ提示セズシテ、單ニ如斯キ考案ハ尋常又ハ普通ノ手段ニ過ギズト査定スルニ至リテハ、正當不正當ノ論議ヲ通り越シテ論究ヲ爲スノ限リニ在ラズ。

ニ. 然レドモ叙上ノ論旨ハ明細書中ニ發明ノ表現ガ完全セル場合ニ云々サルベキモノナレドモ、其記載不完全ニシテ、何レノ點ガ發明ナリヤ又如何ナル理由ニ依リテ其點ガ發明ナルカ等ノ說示明瞭ヲ缺キテ要領ヲ得ザルモノニ就テハ、拒絶理由ノ當否ハ問題ト爲スベキ限リニ在ラズ。此場合其當否ヲ云々スル前ニ先ヅ發明ノ表現ヲ完全ニ致スコトヲ要ス。

B. 次ニ標準ヲ滅却セル不當ナル特許査定ニ付論究ヲ試ミムトス。

- イ. 公知又ハ公用ノモノヲ發明ナリト誤認シテ、是ガ公告ヲ爲シタルニ特許異議ノ申立テモナクシテ、特許査定ヲ爲サレタルモノニ就テハ、元來發明ニアラザルヲ以テ、標準ヲ減却セル不當ノ問題ヲ惹起スルコトナキモノトス。
- ロ. 不能又ハ所期ノ作用效果ヲ呈セザル工夫ヲ發明ナリト誤認シテ、特許査定ガ與ヘラレタル場合モ亦、其根底ニ於テ發明ノ構成ニ缺闕アルヲ以テ、標準ヲ減却セル不當ノ問題ハ惹起スルコトナキモノトス。
- ハ. 然レドモ公知、公用ノモノニ甚シク接近セル工夫、又ハ當業者ナレバ當然知り得ベキモノナレドモ、如スキモノハ餘リニ馬鹿ラシキモノナルガ故ニ之ヲ實施セル者モナク又其記載モナキ程ノ效果薄弱ナル工夫等ヲ發明ナリトシテ、特許査定ガ與ヘラレタル場合ニハ、標準ヲ減却セル不當ノ問題ヲ惹起シ易キモノトス。蓋此種ノ工夫ガ特許價值アル發明的程度ノモノニ相當ストセバ、苟モ公知又ハ公用ノモノト同一ナラザル以上ハ、凡テノ工夫ニ付可能ノモノナレバ、特許査定ヲ爲シ得ザルモノナキノ理ニシテ、自ラ如スキ場合ニハ發明的程度ノ標準ナルモノヲ設定ノ要ナキモノトス。然ルニ他方ニ於テハ通常此種ノ工夫ニ對シテ發明ヲ構成セズトシテ拒絕査定ヲ爲セルガ故ニ、其標準ノ存在ヲ減却セリト謂フヲ得ズ。從テ特許査定ヲ與ヘラレタルモノニ就テハ、標準ヲ云々スベキモノニ非ズ、其未ダ之ヲ與ヘラレザル工夫ニ就テハ、標準ヲ云々スベキモノナリトノ理法ハ何處ニモ存セザルヲ以テ特許査定ヲ與ヘラレタル場合ニモ、標準ヲ減却セル不當ノモノニハ、之ヲ云々セザルヲ得ザレバナリ。而シテ斯ク標準ヲ減却シテ附與セラレタル效果薄弱ナル此種特許ハ審判ニ依リ無効タルベキ素質アルモノトス。
- 然レドモ如何ニ效果薄弱ナル此種程度ノモノト雖、若シ當該方面ニ於テ他ニ同程度ノ特許發明幾多存在スルトキハ、是等ニ依リテ當該方面ノ發明的程度ノ標準ヲ構成サルハモノナルガ故ニ、如何ニ其標準ガ低級ナリトスルモ、此標準ニ合致セバ、此事實ヲ無視シテ、之ヲ當該方面ニ於ケル發明ニ非ズト謂フヲ得ズ。蓋凡ノ産業ハ同一歩

- 調ヲ以テ同一程度ノ進歩發達ヲ爲スベキモノニ非ザルガ故ニ自ラ簡々ノ方面ニ於テハ低級ノ標準ヲ採用ノ必要モ生ズベク、又之ヲ有効ニ活用スルコトニ依リ、夫々ノ進歩發達ヲ助長スルコトハ肝要ノコトナレバナリ。
- 斯クシテ此種特許ノ有效無効ノ如何ハ、一ニ標準ノ如何ニ係ルモノナルコトヲ了解セラレベシ。
- 二. 標準ヲ減却シテ附與セラレタル效果薄弱ナル特許ハ、之ヲ純發明學ノ上ヨリ觀察スルトキハ、眞性發明ニ附與セラレタル特許ナラザルガ故ニ、其故ヲ以テセバ審判ニ依リ之ヲ無効ニ爲シ得ベシト雖、如スキ事態ノ屢發生スルコトハ、特許行政ノ圓滑ナル運行上好マシキ事柄ニ非ズ。從テ斯カル特許ガ直接第三者ノ權利就中同種工業ヲ新規ニ興サムル企業權ヲ阻止スルノ虞アリ又之ヲ阻止シタルガ如キ事實存セザル以上ハ、無害ノ政策特許ニ類スル特許ナルヲ以テ、單純ナル無効理由ニ依リ請求ニ依リ、濫ニ之ヲ無効ニ爲スガ如キハ策ヲ得タルモノト謂フヲ得ザレベシ。
- 而シテ斯カル場合ニ處シテ特ニ銘記スベキコトハ、若シ其特許ニ於ケル所謂發明ノ表現ガ、第三章Ⅺノ總括的表現ナルトキハ第三者ノ企業權ヲ阻止スル虞アルヲ以テ、之ヲ無効ト爲シ、例示的表現ナル場合ハ、第三者ノ企業權ヲ阻止スル虞稀ナルヲ以テ、之ヲ無効ニ爲サルヲ上策ト爲スベキモノナルベシ。
- 若シ夫レ斯カル特許ノ無効ニ對スル時効ノ期間經過後ニ於テハ、總括的表現法ニ係ル特許ノ權利範圍ハ、最減縮的ニ解釋スベキモノトス。例之  $(M \pm N)$  ノ特許ニ對シ  $(M \pm N \pm O)$  ノ如キモノハ其權利範圍ニ屬セズト爲スガ如シ。
- 叙上ノ如キ論旨ハ之ヲ純理ノ上ヨリ批判セバ、不徹底タルヲ免レズト雖、純理ガ最適ノモノニ成ル迄ハ亦得止ザル次第ト解ス。
- 叙上ノ論旨ニ據リ或工夫ニ付、之ヲ發明ニ非ズトシテ拒絕査定ヲ爲シ又ハ之ヲ發明ナリトシテ特許査定ヲ爲シ、若ハ其特許發明ヲ發明ニ非ズトシテ審判ニ依リ無効ト爲ス場合ニ當リ、發明的程度ノ標準ナルモノガ如何ニ重要ナル作爲ヲ爲スモノニシテ、又彼ノ一國ノ政治ガ其歷

史ヲ離レテ之ヲ爲シ得ラザルト同様ニ、特許ニ於テモ其歴史即チ標準ヲ離レテ其眞實ノ處分ヲ爲シ得ラザルモノナルコトヲ了解セラル、ナラム。

茲ニ於テ或工夫ニ付之ヲ査定スベキ當該特許官ハ、叙上ノ事實ヲ特ニ注意スベキコト勿論ナレドモ、又其査定ニ付是ガ正當ナリヤ不當ナリヤ適法ナリヤ不適法ナリヤヲ審議スベキ當該技術上ノ最高審ヲ司ル者更ニ進ミテ當該法律上ノ最高審ヲ司ル者ニ於テモ、叙上ノ事實ヲ特ニ注意スベキモノト解ス。

#### V. 考案ノ性質

叙上Ⅲ及Ⅳノ説示ハ、發明ノ標準ノ程度、内容及其適用ヲ釋明シタルモノナレドモ、是ニ關聯シテ考案ナルモノ、性質ヲ闡明スルコトヲ要ス。仍テ以下ニ其性質ヲ論究セムトス。

考案ハ發明ト異ナリ、考案ニハ考案的程度ノ標準ナルモノハナク、物ノ形態ニ關スル工夫ニシテ、夫ガ叙上ノ發明ノ程度ノ標準ニ在ルモノナルト其標準以下ノモノナルトノ如何ニ拘ラズ、苟クモ或モノニ人爲的ニ因果ノ連鎖ヲ覺メテ新規性、實用性及具體性ヲ以テ特徴化セル特殊形態ニ關スルモノヲ構成スルノ思想タラバ、凡テ其本性ハ考案ト稱スベキモノトス。從テ其工夫ニシテ進歩ノ程度著シキモノモ、之ヲ考案ト稱スレバ、考案ニ成ル所以ナリ。

備考 a. 予ハ屢ニ性質相違論ノIX結論ニ於テ、發明ト考案トハ理論上ニ於テモ事實上ニ於テモ、正ニ同意義ナルコトヲ宣言シ置ケリ。然ルニ今或程度ノモノ又ハ夫レ以上ノモノヲ發明ト爲シ、夫レ以下ノモノヲ發明ト非ズト爲ス思想ト、或程度ノモノ又ハ夫レ以上ノモノ若ハ夫レ以下ノモノヲ、何レモ均シク考案ナリト爲ス思想トヲ對比スル時ハ前者ニ於テ或程度以下ノモノヲ發明ト非ズト爲スニ拘ラズ、後者ニ於テ其程度以下ノモノモ亦考案換言スレバ發明ト爲ナスモノナルヲ以テ、兩者ハ撞着セルコトヲ論難スル者ナキニ非ザルヘシト雖、元來發明ニ於テ程度ヲ云々スル所以ノモノハ、發明就中特許ニ成リ得ル發明ハ考案ヨリモ高尙ノモノナルコトヲ豫定シテ、考案トノ區別ヲ爲サンガ爲ニ外ナラズ。從テ日本及獨逸以外ノ所謂考案ナルモノヲ云々セザル諸國ニ於テハ、發明ニ付考案ト同様ニ其程度ヲ云々スルノ必要ナク、又之ヲ云々セザルヲ知ル。從テ是等ノ諸國ニ於テハ、所謂考案ナレバ事實上ニ特許ニ成リ得ル發明ト爲セルガ故ニ、假令或標準ヲ設定シテ是以下ノモノハ發明ト非ズト爲スモ、夫ハ吾人ノ所謂特許ニ成リ得ザル發明ノ意ニシテ、若シ夫ガ考案ニ相當スベキ程度ノモノナルトキハ、上記諸國ノ例ニ準

シテ之ヲ發明ト謂フモ致テ失當ニアラザルコトヲ容認セラルルナラム。斯ク推按スルトキハ叙上ノ兩者間ニ撞着ノ事實ナキコトヲ了解セラルベシ。

b. 前記ニ所謂實用性 (Utility) ハ發明ノ定義中ニ所謂有益性 (Utility) ト其意義ニ於テ異ル所ナシト雖、只吾人ノ慣習ハ實用ト謂ヘバ何トナク輕便ノモノニ、有益ト謂ヘバ何トナク壯重ノモノニ使用スル傾向アルヲ以テ、便宜上斯ク慣習ニ從ヒ用語ヲ異ニシタルニ過ギズ。

考案ノ本性ハ叙上ノ如キモノナリトスルモ、是ト物ノ形態ニ關スル發明トガ對立スルニ當リテハ、此發明ト考案トヲ甄別スルニ足ル何等カノ區別ヲ設ケザルベカラズ。今假ニ此種發明ヲ考案ニ屬セシムルトキ、之ヲ考案ト稱セラレザルニ非ズト雖、夫ハ考案ト稱シ得ルニ止マリ、發明ト考案トガ對立スルトキハ、其モノ、眞實ノ歸屬ハ發明ノ世界ニ入ルベキモノニシテ、考案ノ世界ニ入ルベキモノニ非ズ。

#### VI. 發明ノ世界ト考案ノ世界トノ區別

茲ニ於テ叙上Ⅲニ説示セル如ク物ノ形態ニ關シ發明ノ程度ノ標準ニ適合ノ一切ノモノヲ發明ノ世界トシ、其標準以下ノ一切ノモノヲ考案ノ世界トセヨ。然ラバ發明ノ世界ト同様ニ考案ノ世界ニ於テモ亦、夫々ノ方面ニ於テ夫々考案ノ多數ヲ包藏シテ [全然新規ナル創造的ノモノハ性質上發明ノ世界ニ入り、錯誤以外ニハ考案ノ新部門ヲ成立スルコトナシ] 各部門ヲ成立シ、是等ノ集合ニ依リテ考案ノ世界ヲ構成スルモノナルヲ以テ、之ヲ觀察スルトキハ其世界相ノ何者タルカヲ窺知スルヲ得ム。斯クシテ其世界相ニ等價値ノモノハ考案タルベキモノトス。斯ク發明ト考案トノ區別ハ、觀念上ニ於テハ明確ナリト雖、實質上ニ於テハ發明ノ標準ニ固定性ナクシテ彈性ヲ帶ブルガ故ニ、是ニ應ジテ考案ノ世界ハ伸縮スルモノトス。

#### VII. 發明ノ世界ト考案ノ世界トノ限界點ニ於ケル區別

茲ニ於テ發明ノ世界ト考案ノ世界トノ限界點及是ニ接近セルモノ等ニ付、之ヲ何レノ世界ニ歸屬セシムベキカハ、當面ノ問題ニ遭遇スル毎ニ常ニ其判斷ニ昏迷スル處ナリ。此事實ハ實質上ニ於テ兩者ノ限界ヲ甚不鮮明ナラシムルモノトス。

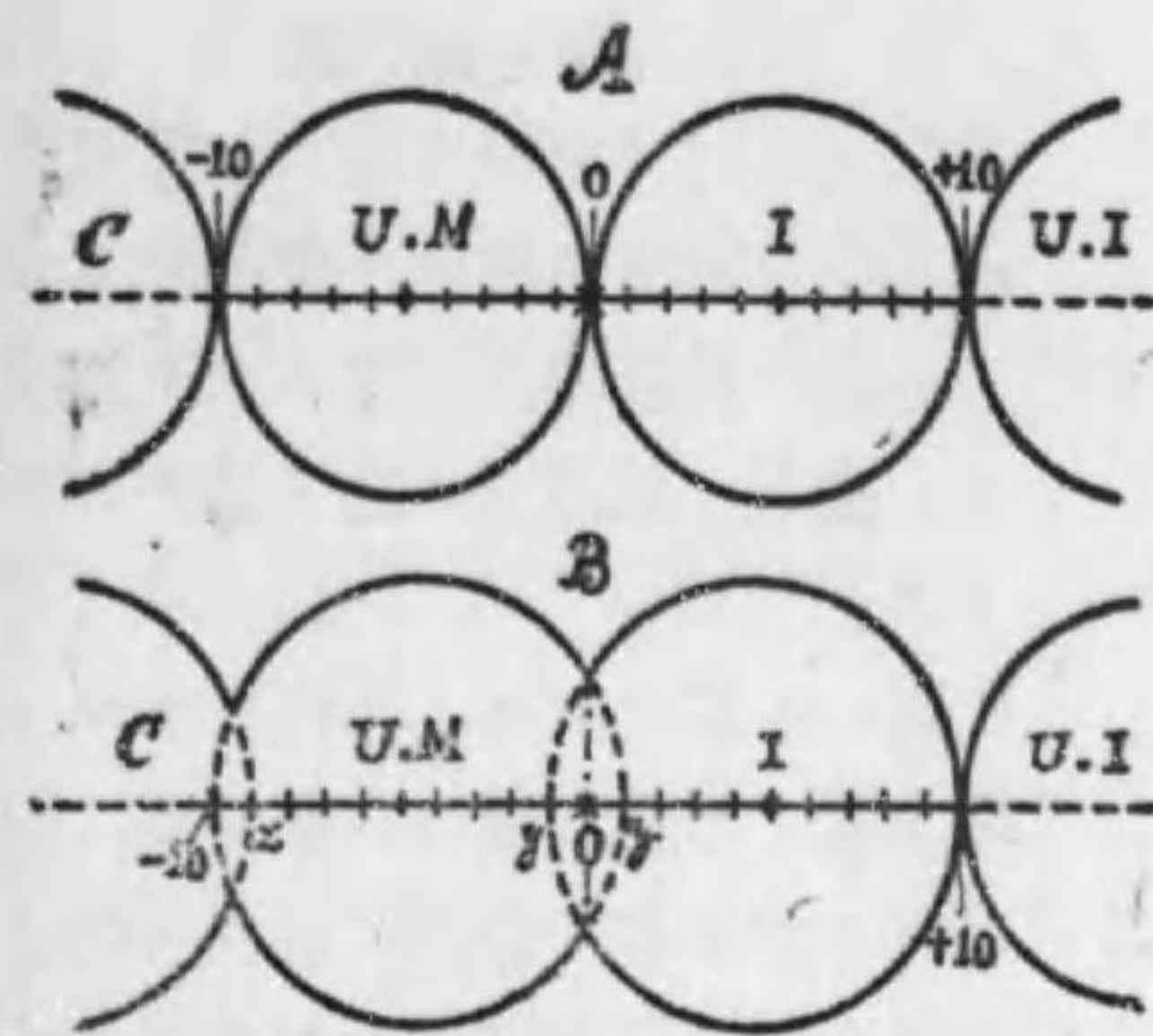
-10      0      +10  
 今數値ノ連續ヨリ成ルーノ直線ノ中央部ニ零ナル數値ヲ位置セシメ、差別ノ形式トシテ、其右邊ヲ

+ノ領域左邊ヲ一ノ領域ト規約ス。而シテ兩端ノ部位ノ數値ヲ10トセバ、右端ハ+10左端ハ-10ニシテ、兩端間ノ差數ハ正ニ20ナリ。茲ニ於テ+10ト-10トヲ比較對照スルトキ、兩者間ノ區別ハ最鮮明ナリ。然ルニ+10ヲ無限ニ小サク、-10ヲ無限ニ大キク爲ストキハ、兩者間ノ差數ハ漸減シテ、遂ニ何レモ零ニ到達シ、無限小ハ無限大ニ均シキノ理ヲ知ラム。茲ニ於テ區別ノ觀念ヲ最鮮明ニ得ラルベキモノト信シ居タル數學ニ於テスラ、兩者間ノ差數ガ漸次接近スルニツレテ、最早其區別ノ狀態ヲ鮮明ニ知見シ得ラザルコトモ亦明白ナリ。斯クシテ事物ノ區別ノ程度ガ數字的ニ示シ得ラル、ナラバ、其了解ハ最鮮明ナルベシトノ思察ハ、常ニ必ズシモ然ラズ。蓋數値間ノ區別ニ於テスラ斯ク其數値ガ吾人ノ日常取扱ヘル範圍内ノ場合ニ於テノ鮮明ナルニ過ギズシテ、其範圍ヲ超越スルトキハ鮮明ナル了解ヲ得ラル、モノニ非ザレバナリ。

C U.M I U.I 叙上ノ數値線ヲ物ノ形態ニ關スル發明ノ思想線ト假定シテ、+ノ領域ヲ特許ニ成リ得ル發明線(I), -ノ領域ヲ考案線(U.M)トシ、線外ヲ公知、公用ノ事實線(C)及未知ノ發明線(U.I)トス。

今或公知、公用ノ物ノ形態ニホンノ些細ナ改良ガ加ヘラレテ、此發明ノ思想線上ニ顯ハレ來ルトキハ、先ヅ-10位ノ邊ヲ占ムベシ。然ルニ若シ此改良ノ程度ガ段々ト高進スルトキハ、-9, -8, ……ヨリ考案線ノ最上位零位ヲ越エテ、發明線内ニ入り1, 2, ……ヨリ遂ニ此線ノ最上位タル+10又ハ夫レ以上ノ數位ヲ占ムル始原發明ニモ及ブモノトス。斯クシテ夫々ノ方面ニ於ケル發明又ハ考案ハ、夫々集合シテ各部門ヲ成立スベシ。而シテ之ヲ發明圈及考案圈ヲ以テ圖示スレバA圖ノ如クナルベシ。

然レドモA圖ノ如キハ觀念上ニ於ケル發明ト考案トノ區別ニシテ、實質上ニ於テハ如斯明確ナル限界ヲ有スルモノニ非ズシテ、正ニB圖ノ如キ狀態ヲ呈スベシ。而シテ内-10~Xノモノハ、或時ハ考案ナリト觀ラレ、或時ハ公知、公用ノ物ノ形態ニ餘リニ類似セルモノトシテ考案ヲ構成セザルモノト觀ラレ、又同様ニO~Y内ノモノモ或時ハ考案



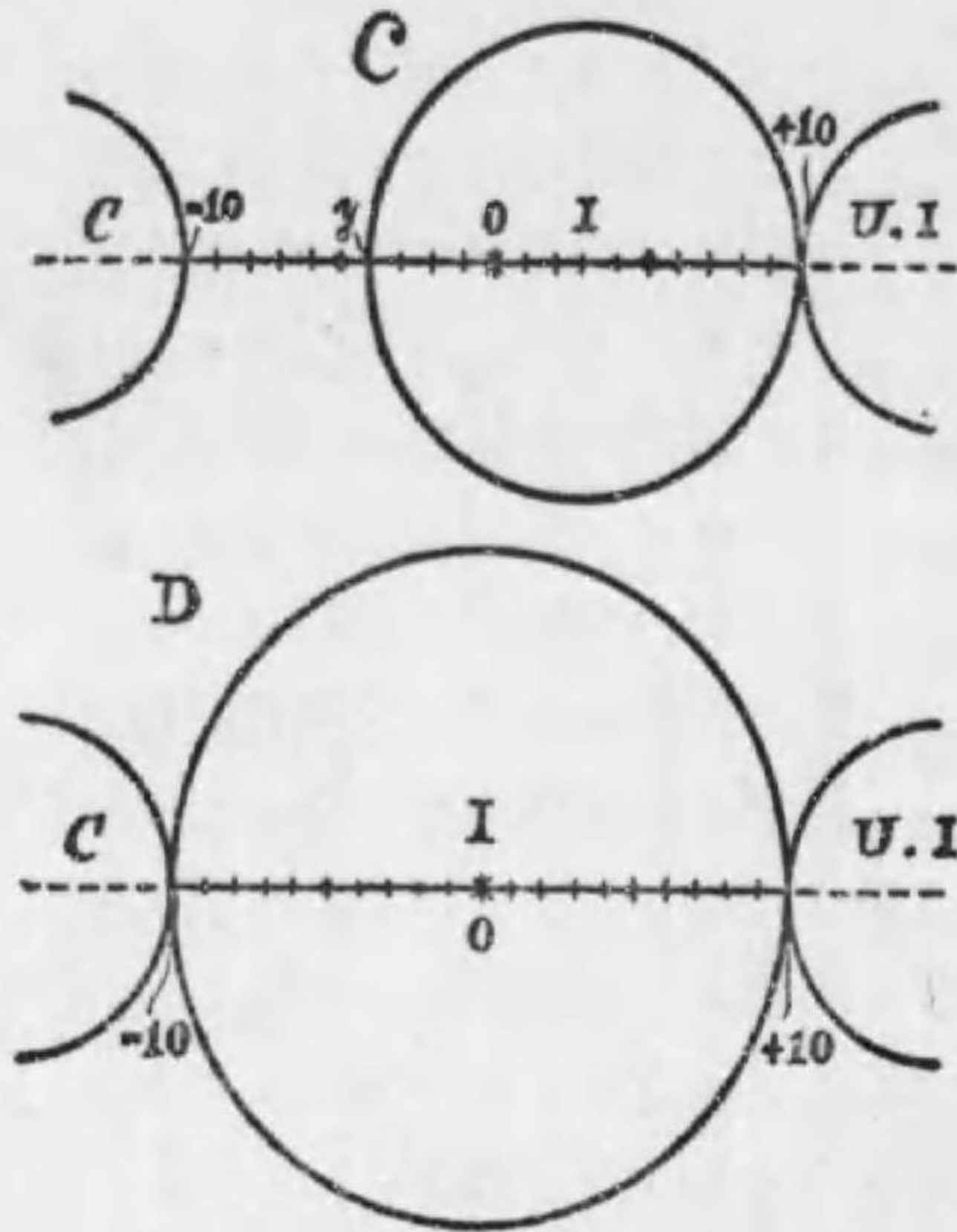
ナルニ拘ラズ發明ト觀ラレ、O~Z内ノモノハ發明ナルニ拘ラズ之ヲ發明ニ非ズト爲シ、考案ト稱スレバ考案ト觀ラレ易キ處アルモノトス。是レ區別セムトスル兩者ノ限界點及其附近ニ於ケルモノ、區別ノ不鮮明ハ、叙上ノ如ク最區別ノ鮮明タルベキ筈ノ數學ニ於テスラ其接近點ノ區別ハ不鮮明ナルヲ免レザルモ

ノナルガ故ニ、マシテ此種ノモノニ於テハ洵ニ得止ザル次第ト謂ハザルヲ得ズ。然レドモ上示數學ノ場合ト同様ニ-10位附近ノ考案ト+10位附近ノ發明トノ區別ハ、考案ト發明トノ何者ナルカヲ熟知セル者ノ眞ノ觀別ニ於テハ、之ヲ絕對ニ誤認スルコトナキヲ信ズ。

要スルニ發明ト考案トノ區別ニ就テハ、其程度ノ差異著シキトキハ兩者ノ甄別ハ明確ニ之ヲ爲シ得レドモ、反是兩者ノ差異著シカラザルトキハ其甄別ハ不可能ナル性質ノモノナリ。從テ物ノ形態ニ關スル工夫ニ付、夫ガ發明ナリヤ考案ナリヤノ甄別ニ當リテハ、恒ニ各部門ノ書ク發明圈及考案圈ノ實質ヲ充分ニ究メテ、其歸屬ヲ決スベキモノニシテ、若シ其工夫ガ著シク低級ナラザル以上ハ、常ニ之ヲ發明圈内ニ容入スベキモノナルベシ。然レドモ發明圈ニセヨ考案圈ニセヨ局部的ノモノナルヲ以テ、更ニ是等各圈ノ集合ヨリ成立スル發明ノ世界及考案ノ世界ノ大局ノ上ヨリモ之ヲ觀察シテ、其甄別ニ善處スベキコト勿論ナリトス。

叙上ノ如ク幾多發明圈ノ集合ニ依リ發明ノ世界ヲ、又幾多考案圈ノ集合ニ依リ考案ノ世界ヲ成立スルモノナルヲ以テ、此兩圈ノ限界點ニ於ケル不明確ノ事實ハ、同理同斷ニ依リ亦發明ト考案トノ各世界ノ限界點ノ不明確タルベキ所以ヲ示スモノトス。斯クシテ此點ニ於テハ遺憾ナガラ事實上發明ト考案トハ程度ノ相違ナリト謂フヲ得ズシテ、寧ロ何等ノ差異ナシト結論セザルヲ得ザルベシ。

Ⅶ. 物及方法ノ發明圖



尙叙上ノ物ノ形態ニ關スル發明圖ト物及方法ニ關スル發明圖トハ、圈ノ範圍多少相違スルヲ以テ、參考ノ爲以下ニ之ヲ揚ゲムトス。

C圖ハ考案ナルモノヲ有セザル物及物ノ製法ニ關スル發明ガ、特許ニ成リ得ル發明ノ圈内ニ容入サルベキ状態ヲ示セルモノニシテ、考案ト同順位ノモノガ如何ニ多ク該圈内ニ收容サルベキカヲ認ムルナラン。否或場合ニ於テハD圖ニ示ス如ク、0ヲ中心トシテ-10~+10ヲ直徑トセ

ル特許ニ成リ得ル發明ノ圈ガ皆無ナリト、誰カ之ヲ斷言シ得ルゾ。之ヲ現實ニ照セバ追加發明ヲ含ム一切ノ發明ガ占ムル圈ハ、正ニ是ニ該當スルモノト解セラレ。

物ノ形態ニ關スル工夫ニシテ0~-10間ノ發明ノ思想線上ヲ占ムルモノハ考案ナリトスルモ、考案モ亦廣義ノ發明ナルガ故ニ、物又ハ物ノ製法ニ關スル工夫ニシテ此0~-10間ヲ占ムルモノ即チ考案ト同順位ニ相當スルモノヲ發明ニ非ズト謂フヲ得ズ。蓋考案ヲ所謂發明ト稱セザルハ、此所謂發明ト區別セムガ爲ノ便宜上ノ稱呼ニ止マリ、其實ハ發明タルナリ。反是其考案ナルモノノ存セザル物又ハ物ノ製法ニ關スル工夫ニ就テハ、便宜上ノ問題生ゼザルヲ以テ、之ヲ一律ニ發明ト稱セザレバ他ニ稱呼ナケレバナリ。

茲ニ於テ-10~+10間ヲ占ムルモノヲ均シク發明ト稱シ得ルナラバ、其一切ヲ特許ニ成リ得ル發明ト看做シテ何等ノ不都合ナキノ理ナリ。然レドモ斯クスルトキハ、一方ハ0~+10他方ハ-10~+10ヲ夫々發明ト爲スモノナルガ故ニ、其間ニ發明ノ認定上ニ不公平ヲ生ズトノ

問題ヲ生ズベシ。一應尤モナル反問ナレドモ、論者ハ次ノ如キ事實ヲ考慮セザルベカラズ。

若シ-10~+10間ノ發明ノ程度ヲ0~+10迄昇進スルトキハ、追加發明ナルモノハ事實上殆特許ニ成リ得ルモノナカルベシ。蓋其理由トスル所ハ、

- (1) 追加發明ハ元來原發明ニ比シテ、發明ノ程度低級ナルヲ普通トスレバナリ。
- (2) 而シテ若シ追加發明ノ發明性ガ原發明ノ夫レト同等(又ハ以上ノ程度)ノモノナルトキハ、其性質ハ最早原發明ノ追加發明ニ非ズシテ原發明ノ利用發明(又ハ別箇獨立ノ發明)タルベキモノナリ。

備考 如斯解釋セザルトキハ、追加特許ハ原特許ト共ニ原特許期間15ヶ年後ニ消滅スルモノナルヲ以テ、其晩年ニ於ケル叙上ノ程度ノ發明ヲ追加發明ニ致サザルベカラザルトキハ、其發明者ハ多大ノ損失ヲ蒙ルニ拘ラズ、若シ之ヲ他人カ發明シタルトキハ原發明ノ利用(又ハ別箇獨立ノ發明)トナリテ、原發明ノ特許消滅後モ依然特許權ヲ保持スルコトナリ、其間發明ノ主體ノ相違ニ依リ權利々益ノ相違ヲ來ス不都合ヲ生ズルモノトス。

現行特許法第二條ハ斯カル場合ノ適用ニ好適ス。然レドモ此(2)ノ如キ發明ハ屢發生スルモノニ非ズシテ、追加發明ト謂ヘバ九分九厘迄(1)ノ如キ程度ノ發明ヲ以テ占ムルヲ實情トス。予ノ側聞スル所ニ依レバ該條文ニ謂ヘル發明トハ相當ニ程度ノ高級ナル發明ヲ意味シ、從テ之ヲ利用特許トスルモ追加特許トスルモ隨意タルベキ性質ノモノナリトコトナリ。但舊法ノ時代ニ於テ利用特許ト謂ヘバ(2)ニ示ス如キ程度ノ發明ニシテ、追加特許ニ於テハ法文ノ精神ハ兎モ角(2)ニ示ス如キ程度ノ發明ヲ云々シテ居テハ殆特許スベキモノナキガ故ニ比較ノ程度ノ低級ナルモノヲ追加特許トナシ居タル權ニ思料セラル。茲ニ於テ側聞ノ次第ニ從ヘバ發明ノ程度ヲ低下セザルモノナルガ故ニ利用特許及追加特許ノ發生ハ寧々タルベク、舊法ノ時代ノ如キ實行精神ニ從ヘバ追加特許ノ發生ハ多數タルベシ。但利用特許ニ成リ得ルモノハ多數在ルベキノ理ナシ。何レガ是カ否カ。予ハ予ノ經驗上後者ニ贊ス。只斯カル場合ノ立法トシテハ現行法ト逆ニ、追加特許ヲ受クルコトヲ原則トシ、(2)ノ如キ場合ニ適應スベク例外トシテ獨立ノ特許ヲ受クルコトヲ得ベキ様、之ヲ制定スルヲ合理的トス。例之特許權者又ハ特許出願者ハ其發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付追加ノ特許ニ代ヘ獨立ノ特許ヲ受クルコトヲ得、ト爲スガ如シ。

- (3) 原發明ノ範圍内ニ於テ爲サレタル低級ノ發明ト雖、説明ノ如何又ハ判斷ノ相違ニ依リ、他人ヨリ斯カル發明ニ付利用特許又ハ獨立ノ

特許ヲ得ラル、懸念ナシトセズ。然ルニ是ニ對シ追加發明トシテノ發明ヲ認メザル場合ニハ、原發明者ハ不測ノ損失ヲ蒙ル虞アルベシ叙上ノ如キ理由ニ依リ低級ナル追加發明モ亦之ヲ發明トシテ認メザルヲ得ザルノ理ヲ容認セラル、ナラム。又斯カル事實ハ自ラ追加發明ナラザル一般ノ發明ノ程度ヲ低下セシムル素因ニナルモノトス。叙上ノ事實ニ想到スルトキハ、C及D圖ノ如キ場合ノ發生ハ、之ヲ否定スルヲ得ザルベシ。

### K. 結 論

斯ク物ノ形態ニ關スル發明ト物又ハ物ノ製法ニ關スル發明トニ依リテ發明圈ノ範圍ガ四五ノ状態ニ變化スルガ如キコトハ、畫一的ナル發明ノ意義ノ研究上ニハ好マシキ事柄ニ非ズ。

然レドモ物及物ノ製法ニ關スル夫々ノ方面ニ於ケル發明ノ程度ニ付、既ニ理論上ニ於テモ之ヲ低下セザルベカラザルノ理由アリ、又事實上ニ於テモ斯カル理由ノ爲ニ、考案ナルモノ、存セザルガ爲ニ、其方面ニ於ケル産業ノ進化率ノ如何ノ爲ニ、其他種々複雑セル事由ノ交錯セル爲ニ、趨勢ニ押サレテ自ラ之ヲ低下スルノ傾向アリトセバ、茲ニ畫ク發明圈ノ範圍ノ偏大ハ當然ノ歸結ニシテ、之ヲ好ムト好マザルニ拘ラズ兎ニ角此事實ヲ是認セザルヲ得ザルベシ。

茲ニ於テ此發明圈ノ範圍ヲ是認シ、且物又ハ物ノ製法ノ發明圈ト物ノ形態ノ發明圈トノ各範圍ノ通同ヲ希望シテ、發明ノ意義ノ畫一性ヲ覓メムトセバ、自ラ物ノ形態ニ關スル發明圈ト考案圈トニ付其發明圈ノ解釋ヲ變改スルコトニ依リテ、斯カル目的ヲ達成シ得ベシ。

果シテ然ラバ其解釋ヲ如何ニ變改スベキカ？

抑發明ト考案トガ程度ニ於テ相違ストノ論旨ハ、確タル根據ニ基キ必然的一絕對的ニ斯クアルニ非ズシテ、只發明ト考案トガ對立セル事實ヨリ何トカシテ兩者ヲ甄別セムガ爲ニ、人爲的ニ便宜上斯ク在ラシメタルニ過ギザルコトハ、叙上ノ論旨ニ照シテ明白ナラム。

然ルニ今若シ發明ト考案トガ假令對立スルモ、此兩者ノ甄別ニ付特別ナル論旨ヲ豫斷セズシテ、單ニ發明ハ物ノ形態ニ關スル工夫ニシテ複雑ノモノ、考案ハ其簡易ノモノヲ指示スルモノナリト謂ツタ位ノ漠然

タル概略的規約ヲ結ビ、借而或工夫ノ社會ニ及ボス性能ノ輕重又ハ其工夫ヲ技術上ヨリ觀テ之ヲ既存ノモノト比較スルトキノ其進歩ノ程度等ガ假令如何ニアロウトモ、之ヲ發明ト爲スベキカ又ハ考案ト爲スベキカハ、一ニ工夫者自身ノ自由ナル撰擇ニ委シ、是ニ對シテハ何人ノ干涉モ之ヲ許サズトノ論旨ヲ採用ストセバ、發明ト考案トノ甄別ハ斯ノ如キモノナラザルベカラズト謂フガ如キ至難ノ論議ハ、遂ニ其必要ナキニ到ルベシ。斯カル思索ノ下ニ於テハ發明ト考案トハ所謂程度ノ相違ナリト爲スガ如キ論旨ハ之ヲ排除スベキモノトス。

既ニ發明ト考案トガ程度ノ相違ニ非ズトセバ、其發明ニ關スル發明性ニ就テハ、物又ハ其製法ニ關スル發明ト同様ノ理法ヲ適用シ得ラルルガ故ニ、自ラ物ノ形態ニ關スル發明性ト物又ハ其製法ニ關スル發明性トノ間ニハ均勢ヲ保持セシメ得ベク、從テ觀念上ヨリモ事實上ヨリモ此兩者ノ發明ハ、茲ニ畫一的ノモノト成リ得ルコトヲ容認シ得ルナラム而シテ叙上ノⅢ～Ⅴノ如キ論旨ヨリシテ事實上ニ於テ發明ト考案トノ標準ヲ云々シテ、是等ニ付既ニ決定ヲ與ヘラレタルモノニ對シテハ、之ヲ發明ナルモノ、内容ヲ解釋スベキ實質上ノ解釋ニ應用セバ、既決ノ如キ事實ハ上示ノ論旨ニ對シテ何等ノ不都合ヲ生ズルコトナカルベシ。

### 三. 結 論

叙上ノ論旨ニ於テ發明ト考案トノ間ニハ質性上ノ相違アルニ在ラズシテ、考案モ亦發明ナルコトヲ闡明シ、次デ是等ノ間ハ所謂程度ノ相違ナリトシテモ亦考フベキモノニ非ズシテ、謂ハハ同様ノ發明トシテ取扱フベキモノナル意ヲ指適シ措ケリ。

而シテ發明ハ發明中ニ於ケル概シテ複雑ナルモノヲ、考案ハ發明中ニ於ケル概シテ簡易ナルモノヲ概稱スト謂フ規約ハ、一種ノ程度ニ相當スルモノニ非ズヤト論難スル者アリトスルモ、斯カル規約ハ考案ヲ所謂發明ト稱呼スルモ、夫ハ考案ニシテ發明ニ非ズト爲ス所謂程度相違論ト異ナリ、考案ヲ發明ト呼ブモ又考案ト謂フモ、夫ハ工夫者自身ノ撰擇ニ委スルモノナルヲ以テ、其論抵ニ黑白ノ相違アルモノトス。尙

此程度ノ規約位ハ眞ニ得止ザルモノトシテ許容スベキガ妥當ナルベシ。蓋元來同種ノモノニ兩箇ノ異名ヲ附シ且是等ヲ兎ニ角相違セルモノトシテ取扱ハムトスル趣旨ナレバナリ。

斯ク發明ト考案トハ同様ノ發明トシテ取扱フベキ性質ノモノナル結論ニ到達シ、併モ此結論ハ現時ニ於ケル如實ノ取扱ヒト一致セザルコト在リトスルモ、是ニ由テ此結論ノ價值ヲ毫モ毀損サルハコトナシ。蓋現時ニ於ケル如實ノ取扱ノ根據ハ、曩予ノ程度相違論中ニ於テ述ベタル論旨中ノ何レカノ點ニ存スルモノトシカ之ヲ思料スルヲ得ザル處ニシテ、併モ斯論ニシテ假令局部的ニハ合理ラシク觀取サルハコトアリトスルモ、之ヲ總體ノ上ヨリ觀察スルトキハ、發明ト考案トヲ程度ノ相違ト爲スコトニ依リ其眞實ヲ闡明シ居ルモノト認メラザレバナリ而シテ考案ナルモノ、不徹底サガ窮理的ニ論議サルハニツレテ、遂ニ此結論ノ如キ論旨ヲ認ムルヲ得ザルニ至ルベキヲ期シテ疑ハザルナリ尙此結論ノ效力ハ發明ノ低下ヲ所期スルモノナレドモ、發明ノ低下ニ對シテ論難スル者アリトセバ、此種ノ論者ハ既ニ幾多ノ特許發明ヲ所有セル者ナルベク、從テ論旨ノ正確ヲ缺ク嫌ナシトセズ。夫レ發明ノ價值ハ特許ニ依リテ保證スベキモノニモ非ズ、又保證サルベキモノニモ非ズ。低級ト認メラレタル發明ニシテ、實施ノ結果社會的ニ利用價值ヲ著シク發揮スルモノト、高級ト認メラレタル發明ニシテ、實施ノ結果社會的ニ利用價值ノ乏シキモノト、何レガ發明トシテ社會ノ福祉ヲ増進スベキカ。思慮一度此點ニ及ベバ、思想上ニ於ケル發明ノ高低ノ判斷ハ、發明ノ特許能力ヲ所決スル唯一ノ準繩ト爲スヲ得ズ。尙發明ノ價值ヲ單ニ特許ナル事實ニ依リテ判斷スルガ如キハ、最進化セザル盲目的判斷ニシテ、斯カル判斷ハ矯正サレザルベカラズ。而シテ其價值ノ眞ノ決定ハ、實施又ハ購入セムトスル者若ハ社會自ラ其内容ヲ精査シテ之ヲ遂行スベキモノトス。

叙上ノ如ク思料スルトキ、特許スベキ發明ノ低下ハ却テ喜ブベキ現象ニシテ、之ヲ論難スベキ性質ノモノニハ非ザルベシ。

## 第五章 發明表現ノ例示

發明(考案)ヲ明細書(説明書)ヲ通ジテ表現スル場合、幾多ノ形式ノ存スル事ハ勿論ナリ。而シテ如何ナル形式ヲ採用スルニ拘ラズ、發明(考案)ヲ他ニ了解セシムル上ニ最明確ナルモノヲ好適トス。予ノ茲ニ例示セルモノハ必ズシモ理想的ノモノニ非ズト雖、發明ノ表現ニ對スル根本的觀念ヲ體得シテ、之ヲ此形式ニ於テ善處セバ、先ヅ普通以上ノ表現ヲ爲シ得ルモノナルコトハ予ノ期シテ疑ハザル處ナリ。

### 一. 明細書記載ノ例示

#### 例一. 始原發明一方法ノ發明ノ記載例

#### 明 細 書

#### 發明ノ名稱

膠質硫酸「マグネシウム」ヲ利用セル肥料促進劑製造方法

#### 發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ「コロイド」ニ成リ得ル硫酸「マグネシウム」ニ適量ノ水又ハ肥料成分含有セル水ヲ添加スルコトヲ特徴トスル肥料促進劑ノ製造方法ニ係リ其目的トスル所ハ膠質硫酸「マグネシウム」ノ酸化酵素ノ酸化作用ニヨリテ肥効ヲ促進スベキモノヲ得ントスルニアリ

#### 發明ノ詳細ナル説明

發明ノ由來 本發明ハ發明者ガ東京附近ノ諸地方ニ於テ種メテ採キ範圍ニ限リ植物ノ生育カ特ニ良好ナルヲ目撃シ其原因ヲ究メント欲シテ外界ノ條件ヲ考察セルニ斯ル地方ハ何レモ氣候溫暖ニシテ日照量ナルハ事實ナリト雖他地方ニ於ケル植物ノ生育狀態ニ比シテ其差餘リニ顯著ナルハ單ニ右ノ條件ノ相違ノミニ因ルモノトハ之ヲ認メ難ク何等カ土壤中ノ成分ニ差異ナキヤニ付研究ヲ試ミタルニ始マリ最初豌豆ノ促成栽培地トシテ著名ナル神奈川縣葉山村大塚地方並ニ南島ノ促成栽培地タル千葉縣君津郡富津地方旱生毒ノ產地トシテ著名ナル静岡縣安倍郡不二見地方旱生豌豆ノ產地タル安藝國江田島地方等ノ土壤ニ就テ精細ナル分析ヲ試ミタル結果右ノ如キ特殊地方ノ土壤中ニハ硫酸「マグネシウム」カ特ニ「コロイド」狀ヲナシテ存在シ一般土壤中ニ於ケル硫酸「マグネシウム」ト其物理的状態ヲ著シク異ニスルコトヲ認メ此點カ植物生育ヲ良好ナラシムル一ノ主要ナル原因ナリト思考セ



リ仍テ更ニ特殊植物ノ促成栽培地トシテ有名ナル埼玉縣ニ合牛領、千葉縣安房郡神戶、平野、大阪府下今宮其他數地方ノ土壤ヲ採集シテ試驗セルニ右ト全ク同一結果ニ到達セルヲ以テ本發明者ハ膠質硅酸「マグネシウム」ヲ人工的ニ製造シテ多クノ植物ニ付實地栽培試驗ヲ施セルニ植物ノ生育其他ノ生理的狀態ニ著シク影響ヲ及ボスモノナルコトヲ確メ得タリ。如斯發見ガ本發明ヲ招來シタルモノニシテ即チ

證明ノ構成「コロイド」ニ成リ得ル硅酸「マグネシウム」ニ適量ノ水又ハ肥料分ヲ含有セル水ヲ添加スルコトヲ特徵トスル肥料促進劑ノ製造方法ヲリトス

公知實事ト本發明トノ關係 然ルニ本發明ノ外本發明品ト類似セリト認メラル、モノニ關シテ公布セラレタル記載ヲ按スルニ其例餘カラス。例ヘハ「エー・エウチ・コールス」ハ硅酸「カルシウム」ヨリ生成セラルル含水硅酸ト石灰トヲ共用シテ可溶性ノ「カルシウム」鹽類ヲ生成セシメテ植物ノ吸收ニ便ナラシメ(英國特許第一四〇八一六九號)「ルトウイヒ・クルン」ハ硅酸土ヲ適當ニ處理シテ「カルシウム」「ナトリウム」「マグネシウム」「アルミニウム」等ノ硅酸鹽類並ニ膠質硅酸ヲ生成セシメ一般穀類玉蜀黍等ノ如キ硅酸ヲ特ニ多量ニ含有スル植物或ハ泥炭地ノ如キ特ニ硅酸ニ缺乏セル土地ニ施シテ著シキ效果アルコトヲ證シ(獨逸特許第二七八四九二號)「スツツチエル」「クレベルゲル」氏等ハ各其著書ニ於テ「マグネシウム」鹽類ノ肥效ヲ説ケリ(Güter: Düngelchre 18. Heft (1915) Seite 88. Kleber: Grundzüge der Pflanzenernährungslehre und Düngelchre 11. Teil, 1. Bd. (1915) Seite 116 Abt. 2. Zeitschrift fuer angewandte Chemie 1922 Seite 173)

尙德國特許第五一八一八四五號英國特許第一五六二二四號獨逸農業新聞千九百二十年第二五四頁「ラツセル」氏著「Soil Conditions and Plant Growth」(1921) pp. 75 等ニ同様ノ記載アリ又最近ニ「レンメルマン」ハ植物ノ有機酸吸收率ト種々ノ形態ノ硅酸鹽類トノ關係ヲ研究シテ「Zeitschrift fuer Pflanzenernährung und Düngung」(1922) 1. Bd. Heft 4 全冊ニ亘リテ詳細ニ報告セリ

要スルニ以上ノ諸研究又ハ發明ハ何レモ硅酸或ハ「マグネシウム」等ノ植物ニ對スル養分トシテノ直接ノ影響ヲ研究セルモノ又ハ之ニ基キテ發明ヲ構成セルモノト思フセラル

然ルニ本發明ハ此レ等ト根據並ニ其趣ヲ全然異ニシ既記ノ如ク「コロイド」ニナリ得ル硅酸「マグネシウム」ニ適量ノ水又ハ肥料分ヲ含有セル水ヲ添加スルコトニヨリテ生成スル「コロイド」狀態物質ノ酸化酵素的酸化作用ニヨリテ植物ノ生育ヲ促進セシメントスルモノナリ從テ「コールス」氏ノ發明ニ係ル硅酸「カルシウム」ノ如キハコレト「コロイド」化スルコト困難ニシテ本發明ノ目的ニ對シテハ寧ろ不適當ナルモノナリト謂フベシ

尙銼紋石、滑石等ハ主トシテ硅酸「マグネシウム」ヨリナリ本發明ト化學的同一成分ヲ有スルニ拘ラズ其結晶性ナルカ爲單ニ之ニ水ヲ添加スルコトニヨリテ「コロイド」化スルコト不可能ナルヲ以テ之等モ亦本發明ノ目的ニ適セズ右ノ事實ハ本發明者カ數多ク實驗ニヨリテ確證スル所ナリ

作用及效果 本發明ハ其製法甚單純ニシテ使用資料相互間ニ惹起スベキ作用效果ノ逸フヘキモノナシ仍テ茲ニ化生セル製品ノ作用效果中其主ナルモノヲ概説セントス本發明品ヲ肥

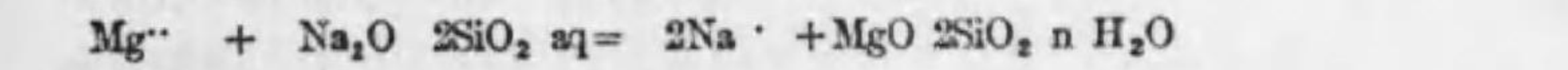
料ト共ニ土壤中ニ施ストキハ膠質硅酸「マグネシウム」ノ酸化酵素的酸化作用ニヨリテ植物ノ生理的機能ヲ活潑ナラシメ肥料ノ吸收率ヲ増加シ又土壤中ノ電位ニ變化ヲ生スルヲ以テ植物ノ發育ヲ良好ナラシムルノ效顯著ナリトス加之其吸着作用ニヨリテ肥料成分ヲ保持シテ是カ徒ニ流出シテ損失セラルルヲ防キ就中重要ナル「カリウム」鹽類ハ之ヲ吸着シテ通過セシメタルモ比較的有害ナル「ナトリウム」鹽類ニ對シテハ吸着力遠ニ弱クシテ容易ニ之ヲ通過セシムルノ性アリ又土壤中ノ酸ヲ中和スルノ能アリ

本發明品ノ有效施用量ハ少量ナルヲ以テ植物ノ生育ニ害ヲ及ボササルハ勿論假ニ數年間之ヲ適用シテ土壤中ニ多少集積スルコトアリトスルモ其形狀カ「コロイド」ナルカ故ニ有害ナル影響ヲ來ス蓋ナシ

現ニ前記ノ特殊植物ノ促成栽培地ノ土壤中ニハ多量ニ本發明ノ膠質硅酸「マグネシウム」ト同様ノモノヲ發見スルモ植物ノ生育ニ何等害ヲキノモノヲ益々之ヲ促進セル事實ニ徴スルモ明白ナリ

實施例

概 説 本發明ノ基本原料タル膠質硅酸「マグネシウム」ハ硅酸曹達若ハ硅酸加里ノ水溶液ト硫酸「マグネシウム」又ハ酸化「マグネシウム」ノ水溶液トヲ反應セシメテ生スル沈澱ヲ洗滌濾過シ電解質ヲ除去シテ得タル「コロイド」ニナリ得ル硅酸「マグネシウム」ニシテ此際ニ起ル主ナル化學變化ヲ「イオン」式ニテ示セバ次ノ如シ



例示ノ一 硅酸曹達六七〇瓦ニ對シ硫酸「マグネシウム」四五〇瓦ヲ作用セシメテ硅酸「マグネシウム」約四四〇瓦ヲ得ケク之ニ三八〇〇瓦ノ水(或ハ適宜ノ肥料分ヲ含有セル同量ノ水)ヲ添加シテ「コロイド」狀態ヲ保タシメテ全工程ヲ終了スルモノトス。

例示ノ二 硫酸「マグネシウム」又ハ酸化「マグネシウム」若ハ炭酸「マグネシウム」ヲ同體ノ膠質硅酸曹達又ハ硅酸加里ト共ニ充分攪和シタル後之ヲ水洗シ電解質ヲ除去シテ「コロイド」ニナリ得ル硅酸「マグネシウム」ヲ製造シ之ニ前例ト同割合ノ水又ハ肥料含有水ヲ添加シテ全工程ヲ完了ス

本發明品ノ化學的成分ハ大部分「メタ」硅酸鹽ナレトモ此ノ外「オルト」硅酸其他ノ含水硅酸鹽類ノ混合物ヲモ包含スルモノトス

本發明品ハ曹達工場若ハ食鹽精製工場等ヨリ生スル含著土廢液ヲ硫酸「マグネシウム」ノ原料トシテ使用スルトキハ極メテ廉價ニ製造シ得ベシ

用途及使用方法

前記ノ割合ヲ以テ製造シタル製品(約四立)ハ約一平方杆ノ耕地ノ施用量ニ相當スルモノニシテ其使用ニ當リテハ之ヲ〇・一八乃至一杆ノ水ニテ稀釋シ(稀釋程度ハ場合ニヨリテ適宜ナルヘシ)他ノ肥料ト混合シテ元肥トシテ施シ又ハ追肥トシテ他ノ水肥ト同時ニ撒布シ

或ハ土壤ト混合シテ施用スルモノトス而シテ相當量ヲ一時ニ施スモ或ハ數回ニ分與スルモ任意ナリ又植物ノ種類ヲ撰ハス

特許請求ノ範圍

本文所載ノ目的ヲ以テ本文ニ詳記シタル如ク「コロイド」ニ成リ得ル硫酸「マグネシウム」ニ適量ノ水又ハ肥料分子含有セル水ヲ添加スルコトヲ特徴トスル肥料促進劑ノ製造方法

出願人 氏 名 印

備 考

- [1] 本件明細書ハ特許第六一〇一七號ノ明細書ニシテ、明細書トシテハ優秀ナルモノニ屬スト認ムルヲ以テ、之ヲ讀者ニ推薦スル所以ナリ。
- [2] 該特許ノ製品ハ促肥素ナル名稱ヲ以テ、東京市丸ノ内、旭硝子株式會社ヨリ發賣セリ。
- [3] 本發明ハ、之ヲ學術の見地ヨリ觀察スルモ、發明ノ素質ヨリ觀察スルモ、必ズヤ將來ニ意義アル成果ヲ齎スベキモノト認ム。
- [4] 「コロイド」狀ノ珪酸「マグネシウム」ハ天然ニ既ニ存在セル物ナルヲ以テ、新規ナル物ノ創造ト謂フヲ得ズ。仍テ物トシテノ發明ヲ構成セズ。如斯基場合ニハ總テ方法トシテノ發明ヲ構成スルモノトス
- [5] 或自然現象ヲ發見シ、之ヲ人爲的ニ意ノ儘ニ社會ニ利用セムガ爲ニ、其自然現象ト同等ナル因果ノ連鎖ヲ以テスル製法ハ、之ヲ新規ナルモノト謂ハザルベカラズ。果シテ然ラバ本發明ノ製法ハ自然的ニハ普通ノ事柄ナリトスルモ、人爲的ニハ新規ナルモノトス。但自然現象ニシテ周知ノモノナルトキハ、人爲的ニ是ト同等ナル因果ノ連鎖ヲ以テスル製法ハ、之ヲ恒ニ新規ノモノト謂ヒ難ク、内容ノ如何ニ依リテ是ガ判定ヲ爲スヲ妥當ナリトス。

例二 改良發明 1. 物ノ發明ノ記載例

明 細 書

發明ノ名稱 木材類用耐火劑

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ木材類ヲ耐火不燃性ナラシムル爲ニ是ニ注入用ノ普通ノ硫酸「アムモニア」含有耐火劑ヲ改良シタルモノニシテ即チ硫酸「アムモニア」ニ硼酸「アムモニア」及苛性「アムモニア」ヲ混和スルコトヲ特徴トシテ成ル木材類用耐火劑ニ係リ其目的トスル處ハ硼酸「アムモニア」及苛性「アムモニア」ノ作用ニ依リ木材類ニ本耐火劑ヲ注入シテ迅速容易ナラシメ且其注入處理後木材類ノ吸濕性ヲ少ナカラシムルモノヲ得ムトスルニ在リ。

發明ノ詳細ナル説明

發明ノ由來 從來木材或ハ綠物類等ニ硫酸「アムモニア」及硼酸ノ混液又ハ硫酸「アムモニア」炭酸「アムモニア」硼酸及硼砂ノ混液ヨリ成ル耐火不燃性劑ヲ使用スルコトハ普通ニ熟知スル所ナリ然レトモ是等ノ劑類ニテ處理セル木材ヲ濕氣ヲ飽和セル空氣中ニ二十四時間曝露スルトキハ一一・三割ノ増量ヲ爲ス缺點アルヲ以テ硫酸「アムモニア」ト亞鉛「マグネシウム」銅又ハ是等ニ均等ナル金屬ノ硫酸鹽トノ複體溶液或ハ其複體溶液ト硼酸トノ混和ヨリ成ル耐火不燃性劑ヲ使用シテ叙上ノ缺點ヲ免除シ得ヘシト論シタル者アレトモ本發明者ハ木材ニ硫酸「アムモニア」及硼酸「アムモニア」ノ混和液ヲ注入シテ吸濕度ノ増減ヲ檢シタルニ前記ト同一狀態ニ於ケル試驗ノ結果ハ〇・二四一〇・二七割ノ増量ヲ認メタルノモニシテ其注入以前ノ木材固有ノ吸濕度ト殆近似ナル好結果ヲ得タリ本發明ハ叙上ノ如キ新規ナル事實ノ發見ニ基キテ之ヲ爲サレタルモノニシテ即チ發明ノ構成 硫酸「アムモニア」ニ硼酸「アムモニア」及苛性「アムモニア」ヲ混和スルコトヲ特徴トシテ成ル木材類用耐火劑ナリトス

作用及效果 本發明ノ耐火劑ガ木材ノ材質中ニ孕藏サレタルキ硫酸「アムモニア」ハ自ラ分解シテ硫酸及「アムモニア」ヲ生シ其硫酸ハ大氣中ノ濕氣ヲ吸收シテ材質ノ増量ヲ惹起スヘシ然レニ硫酸「アムモニア」及硼酸「アムモニア」ガ共存スルトキハ硼酸「アムモニア」ハ比較的安定ノ鹽類ナルガ故ニ最先ニ分解シテ硼酸及「アムモニア」ヲ生シ其「アムモニア」ノ材質中ニ於ケル存在ハ硫酸「アムモニア」ノ分解ヲ阻止スル作用ヲ呈シ從テ如上ノ材質ヲ増量セサルモノト認メラル又右ノ如ク自然分解ヨリ或ハ火熱ヲ受ケタルトキノ分解ヨリ生スル硼酸ハ耐火性ヲ具備セルモノナルヲ以テ木材ニ耐火力ヲ附與スヘシ硫酸「アムモニア」及硼酸「アムモニア」ノ混液ニハ敘上ノ如キ作用及效果アリト雖該混液ハ著シキ粘着性ヲ帶ヒ且硼酸「アムモニア」ハ普通ニ行ハルル注入施行ノ高溫度ニ於テハ容易ニ分解スル等ノ缺點ノ爲ニ木材ニ注入スルコト甚困難ナリ是等ノ缺點ヲ除去セムガ爲ニ苛性「アムモニア」ヲ混和スルモノニシテ因チ以テ其粘着性ヲ減シ且吸濕ニ反抗スル力ヲ強大ナラシメ他方材質中ノ液ノ通路タル流通管孔等ニ含マルル樹脂類ノ溶劑トナリ攝氏五十度以下ノ溫度ニ於テスラ注入液ノ滲透ヲ容易ナラシメ又硼酸「アムモニア」ノ分解ヲ阻止スル材質ノ鹽類ニナルコトヲ防クヘシ如斯ニ三原料ハ各固有ノ作用效果ヲ發揮スル以外ニ優良ナル綜合的作用ヲ奏スルモノトス。

使用原料及均等品ノ解説 本發明ニ使用ノ原料ニ於テ碳酸「アムモニア」ノ代リニ硝酸ヲ使用シ苛性「アムモニア」ト化合シメテ同一結果ヲ得ヘシ又苛性「アムモニア」ハ通常市販ノ「アムモニア」水ヲ使用スルモノナレトモ其他ノ「アムモニア」液ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

用途 本發明品ハ主トシテ建築、家具、器具、裝飾品其他ノ用材ニシテ不燃耐火性ヲ必要トスル物其他紙、布類ノ不燃耐火劑トシテ使用スルモノトス

使用法 普通ノ眞鍮注入罐ニ適宜ノ長サニ截斷サレタル例之槍ノ丸材又ハ角材若ハ板材ヲ重積シテ其淨上ヲ防止シ材質方洗入スル迄本發明品ヲ注入シ次ニ罐中ノ空氣ヲ可及的ニ排氣シ攝氏五十度ニ温メ耐火劑方材質ノ中心部ニ到達スルヲ限度トシテ罐中ヨリ木材ヲ取出シ風乾シテ全處理ヲ完了ス以上ハ一例ニ過キサルモ其他適當ノ方法ヲ採用シテ之ヲ適宜ノ材質中ニ孕藏スルコトヲ得

紙、布類ニハ本耐火劑ヲ塗布又ハ浸漬シ風乾シテ使用ニ供ス

實施例

〔一〕 硝酸「アムモニア」〇・五疋及碳酸「アムモニア」一・五疋ヲ水九疋中ニ溶解シ是ニ「アムモニア」水三疋ヲ添加シ全工程ヲ完了ス

〔二〕 硝酸「アムモニア」〇・五疋及碳酸一・一疋ヲ「アムモニア」水六疋中ニ溶解シ是ニ水八〇疋ヲ添加シ全工程ヲ完了ス

特許請求ノ範圍

一、前記ノ目的ヲ達スル爲メ硝酸「アムモニア」ニ碳酸「アムモニア」及苛性「アムモニア」ヲ混和スルコトヲ特徴トシテ成ル木材類用耐火劑

附記

一、硝酸「アムモニア」一分ト碳酸「アムモニア」三分ト「アムモニア」水適量トノ混和ヨリ成ル木材類用耐火劑

二、硝酸「アムモニア」ト碳酸ト「アムモニア」水トノ混和ヨリ成ル木材類用耐火劑

出願人 氏 名 印

注 意

明細書ノ記載ニ當リ注意ヲ要スル事項

〔1〕 本件明細書ハ難形トシテ簡明ニ要領ノ録示ヲ旨トセルモ、本發明ヲ以テ明細書ヲ記載シテ特許ヲ出願スル實際ノ場合ニ臨ミテハ、各部ニ互リ今少シ詳細ニ記載スルヲ可ナリト認ム。

〔2〕 發明ノ名稱ハ單ニ「耐火劑」ト爲スモ亦可ナリト雖、其爲ニ之ヲ207 箇ノ類別中ノ變ナ類別中ニ編入セラレテ、其存在ヲ看過セラレ其爲ニ後日錯誤ニ基キ同一發明ノ重複特許ヲ他人ニ附與ナル、虞ナ

シトセズ。仍テ發明品ノ主ナル用途ヲ表示シテ「木材類用耐火劑」

ト爲シ以テ本發明ノ歸屬スベキ類別ヲ明確ニ爲シタルモノトス。斯クテ本發明ハ第185 類木竹品處理中ニ編入セラレベシ。然ルニ若シ之ヲ「耐火劑」ト爲シタル爲ニ、第186 類化學雜工中ニ編入サレタリトセバ、其存在ヲ看過サレ易キ素因タルベシ

特許ヲ受クルノ目的ハ、發明ノ保護ヲ受ケムガ爲ニ外ナラズ。其發明ノ保護ヲ受ケムガ爲ニハ、其モノ、存在ヲ社會ニ對シテ顯然セザルベカラズ。其モノ、存在ヲ顯然セムガ爲ニハ、最適ノ類別ヘノ編入ヲ捷徑トセム。從テ名稱ノ撰定ハ亦肝要事ナリトス。

〔3〕 改良發明ニハ必然改良セラレベキ原ノモノ存セザルベカラズ。此原ノモノヲ表示シテ、其改良發明ヲ構成スルニ至リタル由來ヲ明記スルコトハ、個人的新規性並有益性ノ表現ニシテ、其發明性ヲ顯彰スル所以ナリトス。而シテ發明ノ意義ノ何タルカヲ知り且眞ニ改良發明ヲ爲シタル者ナレバ、之ヲ容易ニ克ク爲シ得ベケムモ、彼ノ輸入發明者、何デモ彼デモ思付ヲ直ニ出願スル者等ニ於テハ、其記載ハ容易ノコトニ非ズ。

論者或ハ言ハム、如斯キ發明ノ由來ノ記載ハ繁雜ヲ醸スノミナラズ其實益ニ乏シト。斯論ノ當否ニ就テハ論議ノ價值ナシ。要スルニ眞ノ改良發明者ニシテ其發明ノ權威ヲ顯彰セムト欲セバ、其由來ノ記載ハ肝要事ナリト解ス。

〔4〕 作用・效果ノ釋明ヲ缺除セバ、發明タルノ所以ヲ了解スルニ苦シムベシ。就中發明ノ要旨ガ各資料ノ混和・配合ヨリ成ル場合、其發明ハ所期ノ用途ニ有效ラシキ物ヲ單ニ湊合シタルニ非ズシテ、是等ノ意義アル綜合ヨリ成ルモノナルコトヲ、世人ヲシテ容易ニ了解セシメントセバ、是非トモ其釋明ヲ附セザルベカラズ。

而シテ其釋明ハ各資料單獨ノ作用・效果ヲ述ブルヲ以テ満足スベキモノニ非ズ、必ズヤ各資料ガ相互ニ關聯シテ一ノ綜合的ノ作用・效果ヲ發揮スル點ニ迄モ及バザルベカラズ。斯クシテ其考案ハ有益性ヲ保持セル發明ナルコトヲ明示スル所以ナリトス。

其他ノ種類ノ發明ニ就テモ亦然リ。

[5] 發明ノ施行ニハ必ズヤ均等ノ資料若ハ均等ノ方法存在スベシ。而シテ之ヲ明記スルコトニ依リ、其發明ノ輪廓、支配範圍等ヲ明瞭ナラシムル實益ヲ伴ヒ、且他人ヨリ類似發明ヲ以テ之ヲ冒サル、憂ヲ減少スル效果アルモノトス。

[6] 物ノ發明ニ於テ其物ノ使用法ヲ記載スルコトハ一見無用ノ感アリト雖、其物ト使用法トヲ結合シテ木材ノ耐火處理法ナル方法ノ發明ヲ他人ヨリ提言サレテ、其物ノ用法上ニ或種ノ制限ヲ受クルガ如キコトノ皆無ヲ期セムガ爲ノ萬全ノ策ナリトス。

[7] 物ノ發明ナリト雖、之ヲ製出スルノ製法ハ可及的多數列記スルヲ可トス。蓋他人ヨリ方法的發明ヲ以テ之ヲ冒サル、憂ヲ減少シ得レバナリ。

不備、不完全ナル實施例ノ記載ニ因リ、其發明ト異體同種ノ發明ニ付重複特許ヲ附與セラレタリトスルモ、夫ハ自ラ招致セル咎ナリトス。

[8] 其他ニ就テハ拙著化粧料拔萃錄第一卷附錄第5~15頁ヲ參看セラレベシ。

[9] 改良發明ニ係ル方法ノ發明ノ記載例ハ上記化粧料拔萃錄ノ附錄第17頁ニ提示シ置ケリ。

例三. 改良發明 2. 物就中裝置ノ發明ノ記載例

明 細 書

發明ノ名稱 粉末石灰鹽素ヨリ粒狀物ノ製造裝置

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ傾斜迴轉筒(1)内ニ注水設備(2)ヲ設ケ且筒ノ上端ニ粉末石灰鹽素送入設備(3)(4)ヲ設ケテ成ル原特許發明裝置ヲ改良シタルモノニシテ即チ是ニ更ニ迴轉筒内面ヲ摩擦スヘキ摺擦器及攪取半固形物ヲ破砕スヘキ破砕機ヲ附設スルコトヲ特徴トシテ成ル粉末石灰鹽素ヨリ粒狀物ノ製造裝置ニ係リ其目的トスル處ハ其附設物ヲ以テ迴轉筒ノ内面ニ石灰鹽素ノ可塑性半固形物ノ附着セルモノヲ除去シ且之ヲ破砕スルコトニ依リ容易且連續的ニ粉末石灰鹽素ヨリ可及的齊一ナル大サノ外觀良好ナル小粒狀物ヲ製造シ得ヘキ裝置ヲ得ム

トスルニ在リ

圖面ノ略解

第一圖ハ原特許發明裝置ノ側面縱斷面圖第二圖ハ本發明裝置ノ實施ノ一例ヲ示セルモノニシテ其特徴ノ存在セル部分ヲ特ニ擴大シタル側面縱斷面圖第三圖ハ同上ノA—B線ニ於ケル正面縱斷面圖ナリ

發明ノ詳細ナル説明

發明ノ由來 粉末石灰鹽素ヨリ其小粒狀物ヲ製造スルニ當リ原特許發明裝置ノ如ク單ニ傾斜迴轉筒(1)ノ上端ヨリ粉末石灰鹽素ヲ連續的ニ送入シ同時ニ注水設備(2)ヨリ水又ハ水溶液ノ微細ナル小滴ノ適量ヲ注加スルトキハ筒ノ廻轉ニシテ石灰鹽素粉力其内面ヲ次第ニ轉下スル間ニ加水分解シ粒狀ニ凝固スルモノナレトモ元來石灰鹽素ノ加水分解作用ハ徐々ニ惹起スルモノナルカ故ニ處理ノ初期又ハ中期ニハ可塑性半固形物ヲ筒ノ内面ニ附着固結ヲ免レス其結果トシテ石灰鹽素力加水分解ノ際發生スル多量ノ熱ハ最初ハ裝置ヲ構成スル金屬板ヲ通シテ外部ニ又ハ筒内ヲ通スル自然又ハ人爲的通氣ニ依リ放散セラレルモ致上ノ如キ固形物力筒ノ内面ヲ被覆スルトキハ熱ノ放散充分ナラスシテ筒内ノ溫度ノ上昇ヲ來シ分解作用ノ促進ヲ受ケテ所含鹽素ノ損失ヲ來ス虞アルノミナラス該被覆層ハ漸次其厚ヲ增加シ遂ニ連續被覆ヲシテ不可能ナラシムル結果ヲ招致シ又粒體ノ一部力相互ニ附着集合シテ轉下スルコトニ依リ粗大粒ヲ形成シテ粒體ノ不揃ヲ比較惹起シ易キ等ノ缺點アルモノトス

本發明ハ致上ノ如キ缺點ヲ刈除セムカ爲ニ爲サレタルモノニシテ即チ

發明ノ構成 傾斜迴轉筒内ニ注水設備ヲ設ケ且筒ノ上端ニ粉末石灰鹽素送入設備ヲ設ケテ成ル原特許發明裝置ニ更ニ摺擦器ト破砕機トヲ附設スルコトヲ特徴トシテ成ル粉末石灰鹽素ヨリ粒狀物ノ製造裝置ナリトス

作用及效果 摺擦器ハ傾斜迴轉筒ノ内面ニ固結スル石灰鹽素ノ加水分解ヨリ生成スル可塑性半固形物ノ被覆層ヲ掻キ落シテ其固結ヲ防止シテ筒内ノ發生溫度ヲ放散セシメテ其上昇ヲ防キ以テ石灰鹽素ノ分解促進ヨリ生スル所含鹽素ノ損失ヲ來ササル效果ヲ呈シ破砕機ハ致上ノ被覆サレタル半固形物ト小粒物ノ附着集合ニ依リテ成形ノ粗大粒物トヲ敲打破砕作用ニ依リテ小粒物トナシ併モ元來ノ小粒物ハ其作用ヲ受ケルコトナク敲打ノ部位ヲ通過シテ粒體ノ大サヲ略均齊ニナシ以テ普通ノ如ク最後ニ破砕ヲ行フ必要ナキ效果アルモノトス斯クシテ右兩者ハ相俟テ優良ナル綜合的效用ヲ奏スルモノトス

使用資料及均等品ノ解讀 「本件ノ如キモノニ就テハ之ヲ例示スル事ハ一見不必要ノ觀ナキニ非サルモ發明者ニ於テ其例示ヲ爲スコトハ必スシモ無益ナラズト解ス。而シテ茲ニ例示スヘキモノナキトキハ本項ハ削除セラレヘシ」

用途 本發明裝置ハ粉末石灰鹽素ヨリ其粒狀物ヲ製造スルニ供用ス。而シテ本發明裝置ニ依リテ製出サレタル粒狀物ハ之ヲ肥料ニ供スルモノトス。

實施ノ一例

圖面ニ於テ鐵板又ハ其他ノ金屬板ヲ以テ製作セル長サ一五メートル内外徑約〇・六メートルノ筒(1)ヲ五〇分一ノ位ノ勾配ノ傾斜位置ニ設ケ之ヲ毎分二〇回内外ノ速度ニテ

使用法 鐵上ノ裝置ノ使用法ヲ述フレハ粉末石灰質素ノ貯藏槽(3)ヨリ搬送裝置(4)ヲ經テ連續的ニ筒(1)内ニ送入セララル該石灰質素ハ注水設備(2)ヨリ發泡シテ注加セララル水又ハ硫酸其他ノ微酸性水溶液ニ接觸シテ加水分解チ起シ粒狀チ成形シツク

發明相互ノ關係

本發明ハ特許第〇號發明ニ更ニ攪拌器ト破砕機トヲ附設シテ該發明ノ機能チ一層有效ナラシムヘク改良チ施シタル追加發明ナリトス

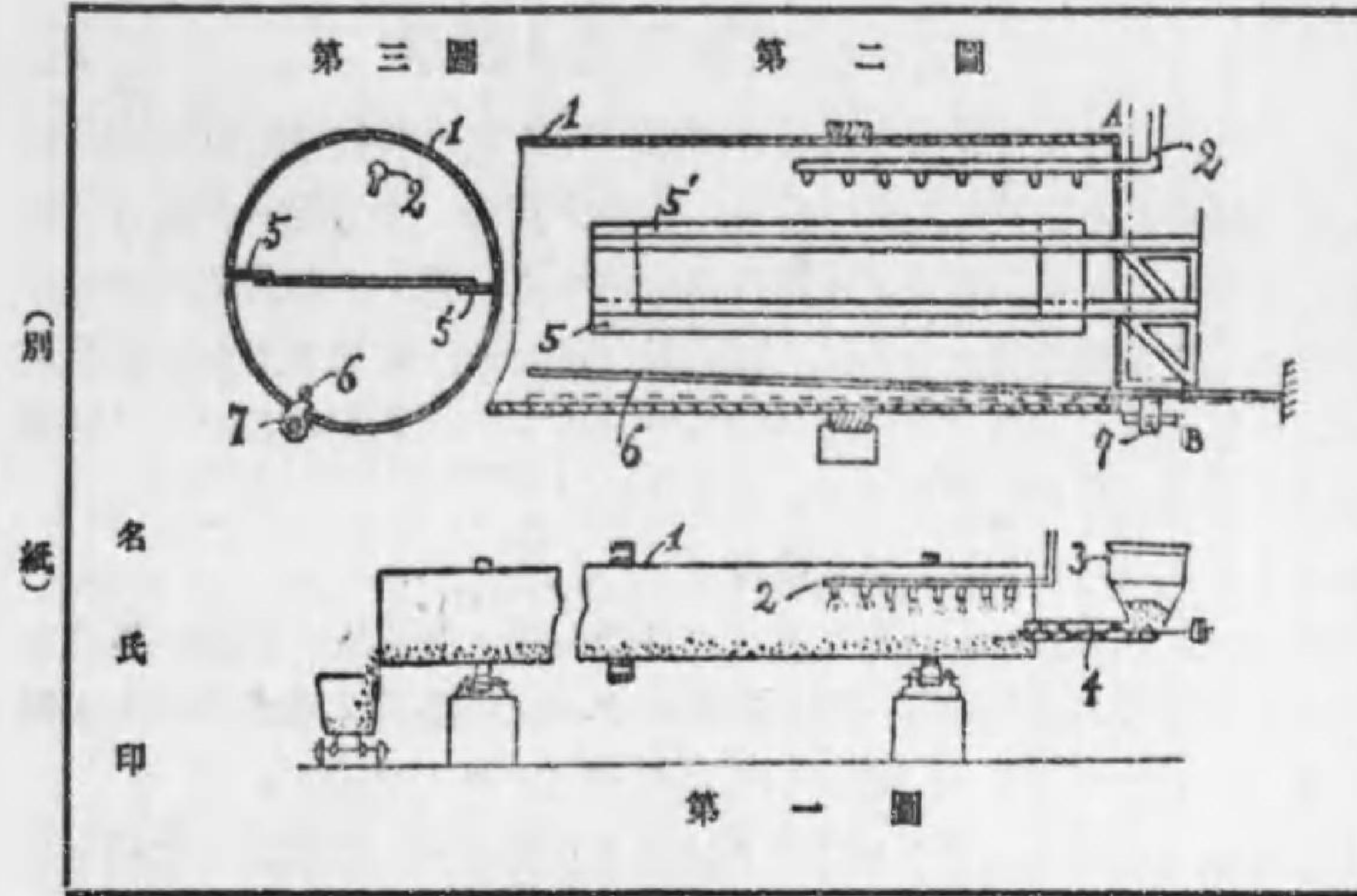
特許請求ノ範圍

1、前記ノ目的ヲ達スル爲メ傾斜轉筒内ニ注水設備ヲ設ケ且筒ノ上端ニ粉末石灰質素送入設備ヲ設ケテ成ル原特許發明ニ於テ該轉筒内ニ更ニ攪拌器ト破砕機トヲ附設スルコトヲ特徴トシテ成ル粉末石灰質素ヨリ粒狀物ノ製造裝置

附記

1、前記轉筒(1)ノ粉末石灰質素供給口ニ近キ部分ニ攪拌器(6)(7)及破砕機(8)ヲ附設シ且破砕機ハ筒内ノ下底ヲ敲打シ得ヘクシテ成ル粉狀石灰質素ヨリ粒狀物ノ製造裝置

出願人 氏 名 印



注 意

- [1] 本例ノ表現ニ依リ裝置ノ發明ニ就テモ亦前二例ト同様ナル觀念ヲ以テ之ヲ遂行シ得ルコトヲ了解セラルハナラム。
- [2] 本例ハ裝置ニ關スル追加發明ノ表現法ヲ示セルモノナレドモ、此形式ハ直ニ利用發明ノ表現法ニモ應用シ得ベク、又是ニ依リ獨立ノ裝置ニ關スル發明ヲ如何ニ表現スベキモノナルカニ付充分ノ了解ヲ得ラルベシト解ス。
- [3] 本例ハ特許第四四〇四四號ノ明細書ヲ參考ト爲シタルモノナレドモ、該發明ノ良否ニ付予ハ不幸ニシテ之ヲ知ラズ。只該發明ハ要旨簡單明瞭ナルヲ以テ之ヲ引例シタルニ過ギズ。又予ノ表現法ト該特許明細書ノ表現法トノ優劣ヲ對照セムガ爲ニ之ヲ撰定シタルモノニモ非ズ。予ハ予ノ一貫セル發明ニ對スル表現法ヲ該發明ノ上ニ適用シテ、此表現法ニ對シ只管讀者ニ了解ヲ得ムトスルモノナレバ、此點ニ付誤解ナキ様理リ措ク。
- [4] 尙電氣ニ關スル發明モ予ノ表現法ニ基キ之ヲ表現ナシ得レドモ、紙面ノ都合上之ヲ省略ス。然レドモ叙上三例ニ準ジテ之ヲ遂行スレバ、同理同斷ニ依リ自ラ其間ノ表現理法ヲ會得セラルベシ。

### 二. 説明書記載ノ例示

物品ノ構造ニ關スル説明書記載ノ例示ハ拙著化粧品拔萃録附録第25頁ニ之ヲ提示シ置ケルヲ以テ、茲ニハ物品ノ組合ハセニ關スル場合ノ表現ヲ提示セムトス。然レドモ所謂組合ハセトハ果シテ如何ナルモノヲ謂フヤ、其意義甚明白ナラズ。蓋物品ニ關スル三態即チ形狀、構造及組合ハセニ於テ、形狀ノ意義ハ明白ナレドモ、構造對組合ハセノ關係及其意義ニハ未ダ定説存セザレバナリ。

然レドモ予ハ之ヲ下記ノ如ク解釋ス。

構造トハ夫々相異ナル效用ヲ呈スル各部ガ恒ニ各獨立ノ狀態ニ孤立セズシテ、是等ガ綜合的ニ一體ニ組合ハサレテ一個體ヲ構成スルヲ正態トシ、是ニ由テ所期スル效用ヲ呈スル狀態ノモノヲ謂フ。

組合ハセトハ夫々相異ナル效用ヲ呈スル各部ガ恒ニ各獨立ノ狀態ニ孤立シテ、是等ガ綜合的ニ一體ニ組合ハサレテ一個體ヲ構成スルコトハナケレドモ、併モ是等各部ノ協助ニ相俟テ正態トシ、是ニ由テ所期スル效用ヲ呈スル狀態ノモノヲ謂フ。

斯ク兩者ハ觀念上ニ於テハ異別ノモノナルコト明白ナレドモ、事實上ニ於テハ其間ノ判斷ノ取捨ニ昏惑ヲ感ズルモノ尠カラザルベシ。然レドモ叙上ノ如キ意ヲ體シテ是ニ善處セバ甚シキ錯覺ニ陥ルコトナキヲ信ズ。

### 説 明 書

#### 實用新案ノ名稱 撥火筒

圖面ノ略解 圖面ハ本案組合ハセノ特徴ヲ示セル斜視圖ナリ

#### 實用新案ノ性質、作用及效果ノ要領

實用新案ノ由來 從來短キ木質性軸體ノ先端ニ撥火筒ヲ固着セルモノアレトモ點火時間餘リニ短キ故ニ實用ニ適セス又球形ノモノアレトモ構造ニ空面ヲ廣ク要スル缺點アリ  
 本案ハ茲上ノ如キ點ニ一大改良ヲ施シ其結果種々ノ點ニ新案ヲ採用シタルモノニシテ即チ  
 實用新案ノ構成 摩擦筒トシテ使用シ得ラルヘキ原料ヲ以テ適宜ノ形狀ト大サヲ賦シタル  
 摩擦筒用板片(A)〔普通ノ加ク紙片ニ摩擦筒ヲ塗着セルモノヲ以テ代用スルコトヲ得〕ト炭  
 素分ヲ多量ニ含有セル有機性纖維質物ニ易燃性、持續性及可塑性アル物質ヲ混シテ短小棒狀  
 形ノ軸體(1)ヲ製シ其先端ニ撥火筒(2)ヲ固着シタル軸木(B)ト此軸木ヲ支持スル部分  
 (3)(4)ト撥火筒(D)ノ一片ヲ支持スル部分(4)(5)トチ有スル「ピンセット」(C)ト一

面ニ凹陥部(6)及切截用切目(7)ヲ有スル細長棒狀形ノ撥火筒(D)トチ特徴トシテ成ル機寸ノ組合ハセナリトス

作用及效果 上記ニ於テ摩擦筒用板片ノ作用效果ハ在來ノモノト相違スルコトナシ次ニ軸木  
 ハ組成成分性質上點火時間ノ持續ニ堪ヘ若シ短時間ニ之ヲ消火シテ尙可燃性物多量ニ殘存  
 ストキハ「ピンセット」ノ先端(3)(4)ノ間ニ其儘保持シテ置ケハ軸木ノ有スル粘着可  
 塑性ノ爲ニ脱落スルコトナク次回ノ點火ニ利用シ得ヘシ然レトモ斯カル場合ニ於テハ其物  
 ニハ最早撥火筒ナキヲ以テ撥火筒ノ補給ヲ行ハサルヘカラス其爲ニハ撥火筒(D)ノ凹部  
 (6)ヲ「ピンセット」ノ捺止片(5)ニ當テ他ノ捺止片(4)ヲ以テ捺持シテ切目(7)ヲ切斷シ  
 テ之ヲ摩擦筒用板片(A)ト摩擦筒用板片ハ撥火筒(D)ノ先端ニ殘存軸木ニ點火スルニ至リ其軸木  
 ハ極度ニ利用シ得ル效用アルヲ以テ最經濟的ナル考案ナリトス

使用費用及均等品ノ解説 摩擦筒用板片及撥火筒ニ使用スヘキ原料ハ在來公知公用ノ物ニシ  
 テ是等ヲ配合シテ前示ノ物ヲ製造スルモノトス而シテ最等ノ形狀ハ三角四角六角圓柱其他  
 有クモ本案ノ目的達成ニ利用シ得ルモノナレハ其一切ヲ利用シ得ルモノトス構造ニ付亦然  
 リ次ニ軸木ニ於テ炭素分多量ニ含有セル有機性纖維質物トハ「マルパ」「綿」「紙布類」「紙  
 布類」「製紙屑」「紙上ノ一切ノ廢物」「鋸屑」「鋸屑」「乾草」「草木竹類ノ葉」「草類ノ莖」其他チ易燃性  
 持續性及可塑性アル物質トハ動物性油脂油ニシテ木蠟「パラフィン」「硬化油等」均等性  
 アルモノ及斯カル均等品ヲ得ラルヘキ一切ノモノ其他樹脂類等チ夫々意味ス而シテ前者ノ  
 粉狀、細斷片等ニ後者ノ一種又ハ數種ヲ混シテ賦形スルモノトス次ニ「ピンセット」ハ鋼  
 鐵其他彈力性アル金屬ヲ以テ製シ且軸木及撥火筒ヲ捺持スル部分チ有スルニ足リ其構造形  
 狀ハ此精神ノ範圍内ニ於テ適宜ノモノヲ使用シ得ルコト勿論ナリトス

用途 普通ノ機寸ト同様ナリ而シテ本案構成ノ四品ヲ適宜ノ容器中ニ容入シ又或モノハ容  
 器ノ内又ハ外ニ點スルハ家庭ノ内外チ間ハ各種ノ方面ニ之ヲ利用スルコトヲ得

使用法 作用及效果ノ記載ニ依リ明白ナリ

#### 實施例

發表シテ後支ナキ範圍内ノモノハ之ヲ簡單ニ記載スルコトヲ得

#### 登録請求ノ範圍

圖面ニ示ス如ク摩擦筒用板片(A)〔普通ノ摩擦筒用紙布片ヲ代用シ得〕ト炭素分多量ノ有機性  
 纖維質物ニ易燃性、持續性及可塑性アル物質ヲ混シテ短小棒狀形ノ軸體(1)ヲ製シ其先端  
 ニ撥火筒(2)ヲ固着シタル軸木(B)ト此軸木ヲ支持スル部分(3)(4)ト撥火筒(D)ノ一片  
 ヲ支持スル部分(4)(5)トチ有スル「ピンセット」(C)ト一面ニ凹陥部(6)及切截用切目  
 (7)ヲ有スル細長棒狀形ノ撥火筒(D)トチ特徴トシテ成ル機寸ノ組合ハセ

出願人 氏 名 印



### 注 意

- [1] 本例ノ形式ハ明細書記載ノ形式ヲ準用セリ。勿論簡單ナル考案ニ於テハ、必ズシモ斯カル形式ヲ以テ之ヲ表現スル必要ナカラムカナレドモ、發明ト考案トハ同意義ナリト爲ス觀念ノ下ニ於テ、其表現ヲ異別ニ爲サルベカラザルノ理法存セザルナリ。要ハ其表現ノ完備ヲ期スルヲ旨ト爲スベキモノナリ。從テ其爲ニハ場合ニ依リ本例ノ如キ表現モ之ヲ徒事ナリト解スルヲ得ザルベシ。
- [2] 本例ハ四箇ノ相違セルモノ、組合ハセノ點ヲ考案ノ要旨ト爲セルモノニシテ、是ニ付實用新案權ヲ得タルトキハ、其各部毎ニ權利アルニ非ズシテ只其組合ハセノ點ノミニ權利存スルモノトス。而シテ若シ其各部ニモ亦考案存ストセバ、各別箇ノ考案タルベキ形式ヲ踏ミ、其各部ニ付權利ヲ請求スベキモノトス。斯クシテ五箇ノ權利ヲ發生スベシ。  
叙上ノ事實ハ特ニ銘記スルコトヲ要ス。

## 章 外 届書其他ノ書式ノ例示

以下ニ例示スル届書其他ノ書式ニ就テハ、法令ニ依リ一定ノ書式アルモノニ非ズ。從テ其要領ヲ盡シ居レバ如何ナル書式ニ依ルモ隨意ナレドモ、只便宜ノ爲ニ一要領ヲ示シテ讀者ノ參考ニ供スル所以トス。而シテ用紙ハ特許局ニ於ケル書類整理其他取扱ニ便ナラシムル爲、凡テ美濃版ヲ使用スルヲ最適トス。

### 一. 讓 渡 證

發明者ガ其發明ヲ他人ニ讓渡シタル場合ノ證明書ヲ謂フ。特許法施行規則第四條其他ノ場合ニ之ヲ必要トス。

收入印  
紙參錢  
捺印

## 讓 渡 證

1 發明(又ハ實用新案)ノ名稱 何々  
前記ノ名稱ニ係ル別紙明細書(又ハ說明書)ニ記載セル拙者(等)ノ發明(又ハ考案)ヲ今般實股(社、所、店)ニ讓渡候事實正也

右讓渡證仍チ如件

年 月 日

住所、縣、郡、村、字、番地、職業

發明者  
(又ハ考案者) 氏 名 印

何 某 殿

注 意 文意ハ簡單明瞭ナ可トス。無用ノ記載ノ爲ニ訂正ヲ要スルコト惹起シ易ク、從テ夫レダケ審査其他ノ處理ヲ遲延スル虞アルモノトス。敘上ニ考案トハ實用新案ノ型ヲ意味ス。以下同斷ナリ。尙提出書類ノ住所ハ凡テ正式ニ記載スルヲ要ス。

## 二. 出願人名義變更届

特許(又ハ實用新案)出願後他人ニ讓渡又ハ出願人死亡等ニ依リ、其必要ヲ惹起スル届書ナリ。特許法第十二條第三項同法施行規則第四條、第三十九條其他ノ場合ニ之ヲ必要トス。

收入印紙  
五圓  
捺印無用

## 出 願 人 名 義 變 更 届

(實用新案ノ場合ハ金參圓)  
(捺印無用ノ意ハ不受理ノ場合該印紙ヲ直ニ他ニ轉用ニ便セムガ爲ナリ)

1 願書番號 大正、年、願第、號

1 名稱 何々

1 届出原因及其日時 年月日出願者何某死亡ニ因リ相續

1 届出ノ目的 大正、年、願第、號出願人名義何某ト變更相成度候

右特許(又ハ實用新案)出願人名義變更相成度出段及御届候也

年 月 日

住所、職業

届 出 人 氏 名 印

特許局長官 一 殿

注 意 届出原因ガ相續ノトキハ戸籍謄本ヲ附シ、又讓渡ノトキハ讓渡證ノ添附ヲ要ス尙代理人アルトキハ新届出人ノ委任狀ノ添附ヲ要ス。

### 三. 特許期間延長願

訂正、途中、見本照型、意見、資料、補充其他ニ關スル指定期日延長ノ請求願ナリ。特許第十五條第一項ノ適用ニ依ル

収入印紙  
壹圓  
捺印無用

#### 指定期間延長願

大正、年、願第、號

名稱 何々

右出願ニ關シ年月日限り、可差出ノ書目下文案(見本)研精(調整)中ニ付右期間ヲ更ニ六十日間延長ノ權御許可相成度此段及御願候也

年 月 日 住所 出願人 氏 名 印

特許局長官(又ハ審査官)一殿

注 意 特許ニ於テ特許期間ハ一年以上ノ延長ノ許可セラレザルヲ普通トス。特許ノ延長ニ關シテ上ニハ期限ノ延長ノ好マシキ事細ニ非ズ。又一箇人ノ期間延長モ其取換ニ關シテ申請ノ煩メヲ省キ、夫レダケ他人ノ出願ニ對シテ迷惑ナク及ボスモノトス。

### 四. 謄本申請書

謄本申請ノ書類ノ遺失シ、或ハ其理由通知書ニ提示ノ書類其他特別ノ書類ノ内容ヲ了解セトスル都合ニ、其謄本ヲ申請スルノ書類ナリ。特許第三十四條ノ準用ニ依ル。

必要額ノ  
収入印紙  
捺印無用

#### 謄本申請書

大正、年、願第、號

名稱 何々

謄本申請ノ理由及其目的物 右出願事件整備ノ爲原明細書全文(又ハ其書第一二頁ノ記載文)ノ謄本

右謄本御下附相成度此段申請候也

年 月 日 住所 出願人 氏 名 印

特許局長官一殿

注 意 書類謄本一枚ニ付20錢、歐文100語ニ付20錢、寫真ニ依ル場合四ツ切一枚ニ付5圓以下ニ於テ特許局ノ定ムル所ニ依ル。

### 五. 發明(考案)共有承諾書

發明(考案)者ト發明(考案)者ニ在ザル者ト其發明(考案)ヲ共有セルコトノ證明ナリ。

#### 發明(考案)共有承諾書

一發明(實用新案)ノ名稱 何々

前記名稱ニ係ル別紙明細書(說明書)ニ記載セル拙者ノ發明(考案)ニ付今般貴殿(社、所、店)ト共有スヘキコトヲ承諾致候也

右共有ノ承諾仍テ如件

年 月 日 住所、職業 發明者 氏 名 印

何 某 殿

注 意 持分ノ定アルトキハ其實ヲ明示スルコトヲ要ス。特許第三十九條ニ依ル。尙持分ノ定テ明示セザルトキハ各人均等ノ權利ヲ保持スルモノトス。

### 六. 共同發明(考案)證明書

數人ガ共同シテ發明ヲ爲シタルトキ、其發明ハ各人共同シテ爲サレタルモノナルコトヲ證明スル書類ナリ。斯クシテ眞性ノ發明者等ガ知ラヌ間ニ、非發明者ヲ共同發明者ノ如ク併記サルルコトヲ防グモノトス。特許第三十七條第二項ニ依ル。

収入印紙  
參錢  
捺印

#### 共同發明(考案)證明書

一發明(考案)ノ名稱 何々

前記名稱ニ係ル別紙明細書(說明書)ニ記載ノ發明(考案)ハ下名等ノ共同發明(考案)ニ候事眞正也

右共同發明(考案)ノ證明仍テ如件

年 月 日 住所、職業 發明者 氏 名 印

住所、職業 同 氏 名 印



七. 會社其他ノ法人名義ノ出願

會社其他ノ法人名義ノ出願ニ當リテハ、其法人ヲ代表スル者ニ付、其代表權ヲ證スル登記簿抄本ヲ要ス。特施第五條ニ依ル。

八. 意見書

特許(實用新案登録)拒絶ノ理由ニ對シ不服ノ點ヲ提出シテ本願ヲ異ニ發明(考案)ナル所以ヲ主張スル書面ナリ。特許法第七十二條ニ依ル。

而シテ意見書提出ノ意志表示ニ關スル形式ハ拒絶理由通知書ノ裏面ニ表示シアルヲ以テ之ニテ録セズ。然レドモ便宜ノ爲ニ別紙ニシテ意見ノ實質的表示ヲ示サントス。

意見書

一、通知ニ係ル……ト本願トハ云々ノ理由ニ依リ作用及效果全然相違セルヲ以テ新ナル理由ニ依リ本願ノ拒絶ハ不當ナリ

二、……ト本願ニ依リ上ノ如キ事實更ニ精査シ上本願ヲ公告スヘキモノト御決定相成度候也  
副中 原明細書(説明書)中ニハ彼上ノ如キ點ノ説示ニ付多少遺漏ノ點アリタルヲ以テ別紙訂正明細書(説明書)中ニ之ヲ闡明致置候

出願人 氏 名 印

注意 意見書ニ於テモ拒絶理由通知書ニ提示セル事實ノ本願ノ相違セル點、及本願ノ發明(考案)ナル所以ヲ簡明ニ説明スル以外、無用ナル枝葉ノ問題ヲ述ビ論議スルトキハ意見ノ要旨ヲ看過シ去ラレルノ虞アルヲ以テ特ニ此點ニ付注意ヲ要ス。又明細書ノ幾度モ訂正セザル様最初ヨリ其完備ヲ期セラルスシ。尙拒絶理由通知アリタル爲メ特ニ訂正明細書ヲ提出スルトモ、夫ハ審査ノ限リニ在ラス。

九. 特許(實用新案登録)異議申立書

特許出願公告アリタルトキ、其工夫ノ特許セラレヌキモノニ非ヌトシテ異議ヲ申立ルモノキノ書面ナリ。特許法第七十四條第二項ニ依ル。實用新案法ハ發効中。

特許(實用新案登録)異議申立書

収入印紙  
五 面  
捺印無用

住所、職業  
(實用新案ノ場合ハ參照)  
申立人 氏 名  
住所、  
出願人 氏 名

大正、年、出願公告第、號願書番號大正、年、願第、號發明(實用新案)ノ名稱何々ノ特許(實用新案登録)異議申立事件

一定ノ申立

本件出願ハ特許(登録)スヘカラサルモノトスト御決定相成度候

申立ノ理由

本件出願ハ大正、年、月、日附出願シ大正、年、月、日特許(實用新案)出願公告セラレタルモノニシテ其發明(考案)ナリトスル要旨ハ……ナリ

然ルニ右ト同一ノモノハ本件出願前ノ刊行ニ係ル某書第、頁中ニ記載セラレ本件出願前公知ニ屬ス

要スルニ本件出願ノ要旨ハ右公告ノ事實ト同一ナルヲ以テ特許法第四條第二號(考案ナレハ實用新案第三條第二號)ニ該當シ同法第一條ニ該當セザルモノト謂ハサルヘカラス

證據方法

- 一、甲第一號證 某書第、頁寫  
二、甲第二號證 某書第、頁寫

年 月 日 右 申立人 氏 名 印

特許局長官 殿

注 前 上記ノ證據方法ノ適當證據方法ナクモ、證人ニ依リテ適當證據方法ノ證明ヲ以テ下ノ證明ヲ以テス。

證據方法

- 一、別紙證人申請書記載ノ證人ノ證言ニ依リ本件出願ノ要旨ハ其出願以前公知ニ屬セシモノナルコトヲ立證ス

(別紙)

證人申請書

異議申立人 氏 名  
出願人 氏 名

右當事者間ノ大正、年、願第、號發明(實用新案)ノ名稱何々ニ對スル特許(實用新案登録)異議申立事件ニ付左記證人ヲ訊問相成度此段申請候也

住所、職業  
證人 氏 名

右證人ニ對スル訊問事項

- 一、本件出願ノ如キ製法ハ何地ニ於テ何日頃ヨリ當業者間ニ公知又ハ公用セラレタルヤ否ヤ

二、……

年 月 日 異議申立人 氏 名 印

特許局長官 殿

十 答 辯 書

彼上ノ異議申立書ニ對スル出願人ノ答辯ニシテ、其要領ハ異議申立ノ理由ヲ辯駁シ、以テ其出願ハ發明(考案)ヲ構成スル所以ヲ主張スルニ在リ。特許法第七十五條第一項ニ依ル。

答 辯 書

大正、年、月、日、第、號發明(實用新案)ノ名稱何々特許(實用新案登錄)異議申立事件  
右事件ニ關スル大正年月日附テ以テ何某ヨリ申立タル異議ニ對シ右記ノ通り答辯仕候

- 一、理由ニ依リ本出願ノ要旨ト公知ノモノトハ相違ス
- 二、理由ニ依リ證人ノ證言ハ其必要ヲ認メス

年 月 日

住所

出 願 人 氏 名 印

特許局審査官一殿

併 答 辯 書ニ對スル辯駁書ノ書式ハ答辯書ニ準ズ。



第一八四類・特許及登錄實用新案

肥 料 拔 萃 錄 第 一 卷

附

發 明 學

大正十四年五月二十日印刷

大正十四年五月二十三日發行

正 價 金 五 圓



編 纂 兼 藤 井 正 雄

東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町  
原宿一七〇番地ノ一六號

印 刷 者 河 村 秀 兼

東京府下中込谷三七七

發 行 所 拔 萃 堂 書 林

東京市外原宿一七〇番地ノ一六號  
編 替 口 座 東 京 六 九 〇 六 三 番

農學士藤井正雄編纂  
既刊

第一七八類・特許及登録實用新案  
**化粧品拔萃録 第一卷**  
附出願心得解説

菊列上製画入 正價金貳圓(送料金十八錢)  
九十頁六十九件

内 容

本 文  
齒 磨 料  
芳 香 體 洗 料  
入 體 ス メ チ ッ ク  
コ ス リ ム  
ク リ ー ム  
癖 毛 矯 正 料  
白 粉 下 粉  
白 粉 マ ー フ  
染 毛 劑  
雜

附 録

- ・化粧品ノ發明ノ出願心得
- ・一般ノ特許出願心得
- 1. 出願ノ手續
- 2. 明細書記載方ノ心得
- 3. 明細書記載例
- 4. 發明ノ種類
- ・一般ノ實用新案出願心得
- ・願書ノ雛形

發行所 拔萃堂書林

豫 告

第二〇八類・特許及登録實用新案  
無機窒素化合物拔萃録 第一卷

◀近キ將來ニ之ヲ出版ノ豫定▶

内 容

1. 合 成 ア ム モ ニ ア
2. 空 中 窒 素 固 定
3. 硫 酸 ア ム モ ニ ア
4. 硝 酸
5. 石 灰 窒 素
6. 其 他

回 拔 萃 堂 書 林 回

全日本ニ於ケル  
農藝化學ニ關スル新智識ハ

日 本  
**農藝化學會誌**  
ヲ見ヨ!

正價每冊金六拾錢(郵稅共)

東京帝國大學農學部農藝化學教室内

**日本農藝化學會**

振替口座東京六八一八七番

▶ 全拔萃録ノ編纂ニ付 ◀

天下ノ高志ニ告ス

宛然淡泊ノ如キ既存ノ發明!

幾多ノ人士ハ是等ノ中ヨリ所望ノ發明ヲ知ルベク、或ハ之ヲ知ラザルガ爲ニ其發明ヲ重ネテ發明スベク、無益ニ時間ト勞力ト財物トヲ空費スルコトノ如何ニ類リナルコトヨ。

然ラバ簡易迅速確實ニ之ヲ知ルベキ方途アリヤ?

一ノ發明ト雖要用ノ途多岐多様ニシテ數種數類ニ跨ガルモノ頗ル多ク是等ト共ニ所期スル發明ノ一切ヲ知ラムトスルニ當リ、若シ多大ノ時間ト勞力ト財物トヲ伴フトセバ、發明ノ將來ニ産業ノ興隆ニ阻害甚敷モノト謂ハザルヲ得ズ。

茲ニ叙上ノ缺點ナク簡易迅速確實最善ニシテ唯一無二ナル方途アリ! 乃チ之ヲ組織的ニ編纂サレタル拔萃録ニ依ル途ナリトス。斯言ノ當否ハ贅語ヲ要セズ本書等克ク之ヲ證セム。

嗚呼 善哉 拔萃録!

然ルニ我國ニ於テ只其名ヲ誦スル者ハ衆シト雖、悲哉其之ヲ具現スル者ハ空シ。

予ハ茲ニ二種ノ拔萃録ヲ推薦シタリト雖、夫ハ全拔萃録ヲ編纂ヘノ單ナル難題ヲ例示セルニ過ギズ。此種ノ例示ナレバ、今後モ尙圖面其他ノ困難ヲ征服シテ、之ヲ遂行スル幾多ノ卓越セル有志輩出スベク、亦予ニ於テ之ヲ熱望ニ堪ヘズ。

編纂ノ業漸ク成ルヤ宜ク之ヲ書肆ニ託スベシ。何ゾ斯言ノ容易ナル! 夫レ書肆ハ營利ヲ以テ業トスルモノナルガ故ニ、性質上營利ニ乏シキモノハ其刊行ヲ然諾セザルベシ(例之化粧品拔萃録並本書ノ如シ)。然ラバ其刊行ノ拋棄? 昂然タル一片奉公ノ氣存セバ、未ダ夫ガ拋棄ヲ肯ゼズシテ、茲ニ編者自ラ夫々數百金ノ損失ヲ豫期シ決然ト之ヲ刊行スベシ。尙富裕ナリセバ克ク之ニ堪ヘムモ亦

久シカラズ。況ヤ予ノ如キ眞ニ無一物ノ雜輩ニ於テオヤ。  
 併モ斯ク編者自ラノ刊行ニ俟タザルベカラザルモノハ、實ニ全類  
 別ノ八割以上ナルベシ。夫レ事態ハ此ノ如シ、以是之ヲ單ニ有志  
 ノ事ニノミ委セムカ、其完成ハ百年河清ヲ望ムノ類ナルベシ。  
 茲ニ於テ全拔萃録ノ完然ナル出生ニハ性質上國家ノ力カ、又ハ高  
 志ノ力ヲ要求サルベキコト明白ナルベシ。  
 予ハ國家ニ其具現ヲ要求スベキ論旨ニ就テハ姑ク之ヲ措キ、此際  
 ハ只管高志ノ奮起ヲ促サムトス。  
 天下ノ高志！ 高志ニシテ一生ノ思出ニ何か後代ニ善事ヲ遺サム  
 コトヲ發願セバ、無極ノ意義アル最高善事ノ一トシテ、全拔萃録  
 編纂ヲフ壯業ノ存在ヲ知り、其之ヲ畫策セラレンコトヲ勸告ス。  
 其基金ハ僅カ百萬乃至二百萬金ノ喜捨ニテ事足ルベク、併モ其金  
 利ハ克ク三世ニ互ル發明及考案ノ拔萃ヲ支持シテ、我特許制度ノ  
 存セム限り久遠ニ有終ノ美ヲ濟サム哉。  
 斯願望ヲ甘キ夢ナリト世ノ人ノ笑ハハ笑ヘ！ 誹ヲバ誹レ！ 人  
 ノ世ニ意義アルコトハ何日カ亦成ラザラムコトノアランヤ。  
 過去四十年間我國ニ於テ拔萃録編纂ノ如キハ、甘キ一ノ夢ニシテ、  
 誰カ其具現ヲ想像セシゾ。然ルニ今ヤ其一二種ノ存在ハ實現セラ  
 レタリ併モ夫ハ薄給ニシテ無一物ナル一技師ノ微力ニ依ル産物ナ  
 リトス。  
 既ニ夢ハ破レタリ。凡ソ創造ハ氣ニアリ力ニアルヲ知ル。今ヤ無  
 爲ノ永キ眠リヨリ覺醒シテ、瞬刻モ速ニ發明界ニ產業界ニ必須ノ  
 全拔萃録ヲ推薦シ利用セシメザルベカラザルノ秋ハ來レリ。  
 奮起セヨ天下ノ高志！ 而シテ只一舉ニシテ高調セシメヨ。

善哉 全拔萃録 彌榮！

大正十四年一月

藤井正雄

521

130

終